

拳法

同志社大学拳法部創設十周年記念小誌

目 次

表 紙 — 三十三間堂雷神 — 二科会 小森さんじ画

校 祖 新島襄先生—同志社建学の精神	1	
健全なる心身の錬成に	文部大臣 荒木万寿夫 … 2	
教範の一つに採用	防衛庁長官 江崎真澄 … 3	
拳法について	今 東 光 … 4	
巻 頭 言	O B 会々長 三本良治 … 5	
拳法部創設十周年を祝う		
同志社総長 大塚節治	6	
大学長 上野直藏	6	
拳法部々長 長尾義三(商学部教授)	7	
同志社スポーツOB連盟理事長 岸田敏馬(関西TV輪富務取締役)	7	
〃 顧問 大宮 隆(宝酒造専務)	8	
〃 〃 千 宗 興(茶道裏千家若宗師)	9	
日本拳法会々長 矢野文雄	18	
社会人拳法会々長 中野 謙	18	
同志社拳法部御範 乾 竜 峯	19	
日本拳法協会御範 森 良之祐	25	
大阪大学拳法部OB会々長 中木 重 樹	29	
関大拳法部主持 浦田吉伸	29	
拳法部十周年に当って私案を一つ	体育会顧問 田 謙 潔 … 9	
十周年を祝し、あわせて同志社スポーツの現況	体育会委員長 上 田 彰 二 … 27	
十周年に思う	拳法部主持 柏 木 嗣 男 … 28	
日本拳法の本質	宗 家 沢 山 宗 海 … 16	
十年の歩み 前編(昭和25年~29年)	10	
同志社人気質と同志社スポーツ	拳法部監督 藤 田 泰 男 … 26	
「時代劇と拳法」	映画俳優 田 村 高 広 … 8	
「拳法 愚 感」	〃 市 川 雷 蔵 … 17	
武 道 鼎 談	{ 武 道 評 論 家 上 西 五 郎 … 35 { 関西TVプロデューサー 石 浜 典 夫 … 35 { 日本拳法昇段極審議委員 岩 佐 晃 男 … 35	
拳法教室	解 説 宗 家 沢 山 宗 海 … 20	
藤 木 悠	フェンシング部OB 鈴 木 悠 蔵 … 28	
O B 歴 訪 1	映 画 俳 優 高 宮 敏 二 … 32	
随 想	外地寸描	O B 早 川 幹 雄 … 30
	に お い	〃 三 木 良 治 … 31
	拳法による社会人	〃 森 本 弘 道 … 32
	阿波踊・拳法・マンボ	〃 桂 一 三 郎 … 33
	交遊寸感	〃 插 曆 豊 明 … 33
祝 園 懐 古	「美登幸」女将 浅 田 三 恵 … 34	



校 祖
新 島 襄 先生

同志社は独り普通の学問を教授するのみならず学生の徳性を涵養し其品行を高尚ならしめ其精神を正大ならしむることに注意し独り技芸才能ある人物を教養するに止まらず所謂良心を手腕に運用する人物を出さんことに務む



健全なる心身の錬成に

文部大臣

菅原野矢

日本拳法が、戦後スポーツ拳法として大きく成長し、関西の十余に上る大学、関東でも早慶を初めとする六つの大学で、これを探り入れ、学生間の健全なスポーツとして普及し人気を博しつつあることは、まことに喜ばしい。同志社大学が十年前、この日本拳法をいち早く体育会の一つに取り上げ、その育成をはかることにより学生スポーツ拳法を今日までに発展させる突破口を築かれたことは、同大学の役割や実に大きかつたと思ひ、心からの讃意を惜しまない。同志社大学拳法十年の尊い歴史を祝い他校学生と手をたずさえ、はげまし合つて全学生の健全な心身の錬成に、たゆまない活躍を切に祈りたいものである。



教範の 一 つ に 採 用

防衛庁より喜賀

佐藤 喜賀

最近、学生間で拳法が大いに盛んになっている。その練習なり試合をみると剣道柔道あるいはそれ以上の緊迫感に迫られる。わが防衛庁では陸上自衛隊の全部隊に習得させてはという事になり、徒手格闘術の教範のうちに、この日本拳法を採用した。まだ防具や教官が揃っていないのでその整備を急いでいるが、不屈の魂を養う上にもたしかに効果のあることを見逃したくないと思う。同志社大学の拳法部が、学生拳法の中核となり十周年を迎えられたことは喜びに耐えず心から御祝意を表す。後に続くわれわれ自衛隊も学生拳法にまけない努力を払い、隊員の心身のたんれんに意をくばりたいと思う。

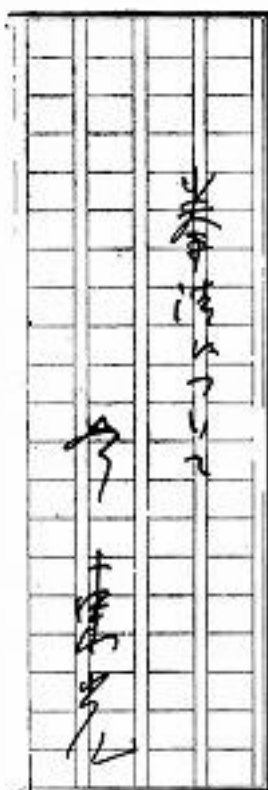


講談などに無手勝流といふおどけた話がある。このやうな流儀は武芸十八般の中にもないが、しかしながら武芸の本来の目的を比喩している点では面白い。

劍道といひ、柔術といひ、共に攻撃するといふよりは自分の身を守るのが目的だ。その意味では無手勝流が一番優れている兵法だらう。

元來、人間の手の働きは、外に働けば敵を敵死し、内に働けば自身を医す役に立つものだ。人が頭を打ったり、足を打ったりすると、思はず吾が手がそれを押へるのは、自然に手で以て医すために無意識のうちに働くのだ。人が打つてくると手が自ら防くのはこの理である。

拳法は支那に興。たと伝えられている。恐らくインド傳來ではあるまいか。



特に琉球に興った支那伝来の拳法は、薩摩から凶器を取りあげられて以来、赤手で敵の攻撃を防ぐことに役立った。これは一種のプロレタリアの武術と言ふことが出来る。

従って拳法は、日本の男子が心身鍛練のために修得することも必要だが、弱い女性がこれを体得することをすすめたい。夜道の痴漢などの襲撃には、これほど優れた自己防衛術はないからだ。

近來、拳法を修める人が次第に増加し、僕は結構なことだと思っている。拳法などの武道を学ぶことによって、いつの間にか健全な精神を涵養し、愚劣な思想などに影響されることが少いからだ。

日本が敗戦を喫し、丸腰のまま世界に雄飛しなければならぬ時に、吾が赤手によって強く祖国を守るには拳法を措いて他に術がないと思ふ。

八十五年の歴史と伝統をもつ同志社大学は新島先生が智徳の旗印のもとに創立された大学であります。

この大学に己に学ばれた諸先輩あるひは現に学んで居られる者はこの伝統を受けつぎ幾多の時代の変転にも社外諸兄

将来をいよいよ盛んにしてゆかねばならぬ基礎的要素を持つた苦心の十年ではありましたが。多忙なる勉学の余暇をさいて寄り集まった若い情熱は拳法を通じて湧き出づる独得の環境を現実の社会に造成して参りました。

言 頭 表

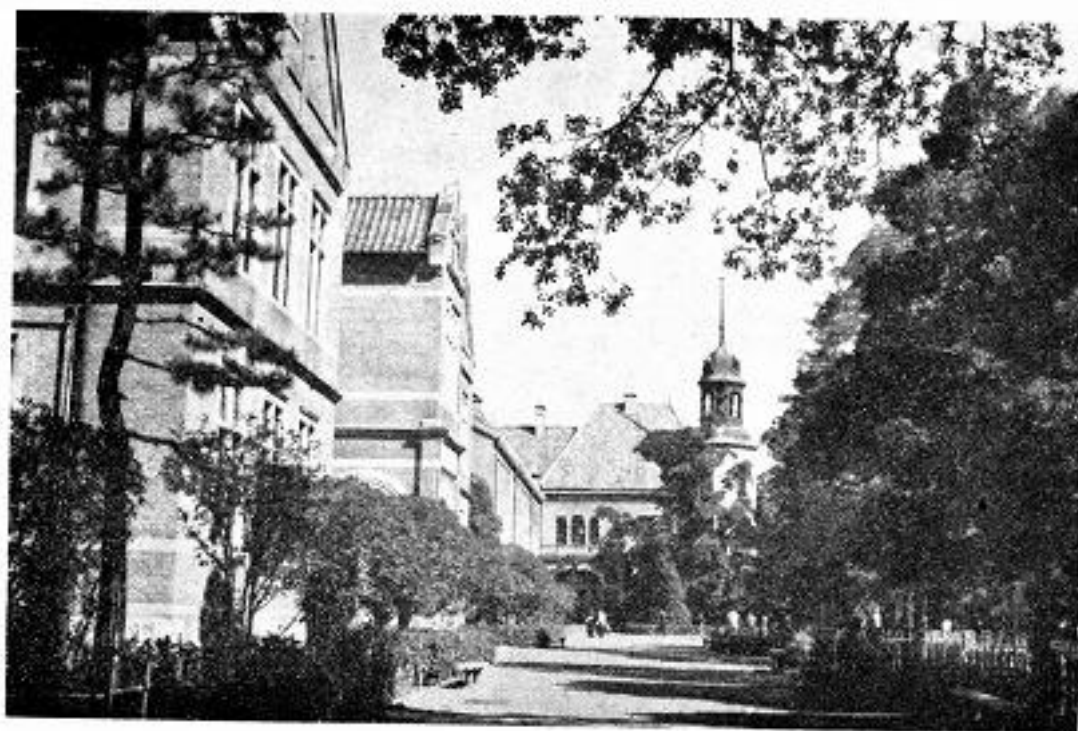


同志社大学
拳法部OB会々長
三 木 良 治

姉の深い御理解と御支援により今日の如き輝やかしき隆盛を見るに至ったのであります。

一方同志社大学拳法部に於ても五十有余名の現役員と百名をこゆるO・Bを擁し或る意味に於ては短い歴史であります。が十年と云ふ年月はその

今日その十周年にあたりあえて行いました清楚なる記念行事も一重に皆様方の絶大なる御支援のたまものと深く感謝致す次第であります。今後共一層御支援下さる様部員と共に御願ひ致します。



拳法部創設十周年を祝う

総長大塚節治

大学長 上野直藏

拳法部は今年創立十周年を迎えることとなります。十年ひと昔と申しますが、数多い当大学の運動部の中にあつてはごく新しいクラブであります。

凡そ、新しいクラブが誕生するときには時代の要求に応ずる態度と精進しようとの熱意、努力がありますが、時を経るにつれてこれらの熱意、努力が乏しくなり唯墮性でクラブが存続しているにすぎぬ状態になり勝ちのものであります。さればこそ創立何年と言ひ、何々記念と言つて時を割して心を新にすることが必要となるのであります。

しっかりとクラブを造る為には先づその創設期に基礎を固めることが肝心であります。未だその創設期にあると申せます拳法部が、各社員自覚を新にし愈研究精進され立派なクラブを創り上げられますよう祈つて見まします。

体育会拳法部が創立十周年を迎えて、新しい部を創設し、ここまで成長させるには、尋常一ようの苦勞でなかつたらうことを思い、関係各位に敬意を表し、あわせて、その發展をお祝ひする。しかし、実のところ、うかつながら、わたしは拳法なるものをまだ見たことがなく、その妙味に接したことがない。ボクシングや空手と同じもの程度にしか理解していなかった。こん度の機会に説明してもらつて、やや理解するところがあったがいずれそのうち実際に見せてもらつて勉強するつもりで、その時の来るのを期待している次第である。

知、徳、体と呼ばれ、その三位一体が人間形成の完全な姿相であるかぎり、同志社大学に三十五種目の運動部があり、千数百の学生諸君がそれぞれの部で、学業研さんのかたわら身体の錬成と精神の修養にはげんでいるのは真に好ましい姿であり、その派ぶ種目は何んでもあろうとも目的は一つである。拳法は闘技である闘技となると、練習、試合ともに対人の闘争形式をと

るため、ともすると危険視され、あやまり考えられることも多い。事実、未熟な途中によつて起される問題も闘技なるがために大きくとりあげられ勝ちである。闘技も武道からスポーツ化された限り、相手を倒す手段ではなくて試合という場を通してお互が相手と協力して、その技を練り競うところにスポーツとしての本質があるとおもう。相手は敵ではなくて協力者であつて、これがなければスポーツとしてなりたない。ここに理性によつて制御された闘争心が重視され、人間形成の手段としての闘技の価値が認識されることとなる。

拳法部が風雪をしのいで十年、この日を迎えられたことをよろこぶ。先輩各位もそれぞれ社会人として立派に活躍されているときく。これは拳法のよさを語り部の厳正さを証するものであろう。この上とも一層自重されて健全な部としての向上と發展とを祈つてやまない。



柔道部部長

長尾 義三

(商学部教授)

同志社大学に柔道部の諸形式が一通り整って既に十年を迎えた。当時神学部の建物の傍に商学部研究室が建てられていた頃の幹部としての岩佐昇男君が天王寺中学出身の縁故で来訪し、この時部長を引受ける様依頼を受けて以来、部の発展と綱紀維持とに努力することとなった。日本柔道の武道としての歴史は新しい。世間では空手との区別もあまり知られてはいなかった。攻防一切に科学的基礎、合理的な根拠を持つ点に於て、講道館柔道と相通するものを持つ柔道は、関西を発祥地としてやがて全国に広がる機運にさしかかっていた時である。同志社でもはじめは御所の外苑を練習場としていたのが、この頃から学内に始めて道場を持つこととなり、乏しい建物を剣道部と交互に使用しながら練習を重ねた。宗家沢山先生をはじめ中野先生乾先生の能まなない御指導の賜として順調な発達をとげた部は、関西の強豪関大関学と鼎立して近畿に重きをなすに至ったまでの、先輩や後代選手の手は言うまでもない。部員一

同みな身を修めるの綱領に導かれ、創立の精神を体して精進した結果、今日の学生体育としての柔道部の隆盛を見たのである。学生の体育運動は、学生の、という条件が加えられている点で、単純な体育そのものと同一に律する事は出来ない。社



同志社スポーツOB連盟

理事長 岸田敏馬

同志社建学の精神は、キリスト教精神に立脚した校祖新島義興先生の「所謂良心を手腕に運用する人物を出さんことに務む」との言葉を伝統的校風として、建学以来八十五年の歴史を誇り年毎に充実発展を極めるに到りました。

そうした中において体育会は近年益々発展向上を遂げ、今春野球部が全日本選手権大会に関西リーグ代表として出場し

会が大学其他の研學機関にある者に対して、種々の犠牲を払い特恵的待遇を許してまで、期待をよせ存在の意義を認めているのは、これが社会の合理的進歩の不可決条件だからである。学問は何年やっても限度はないけれども、社会の情勢や本人の年令等の自然的条件から、一応大学なら四年という限度を立てている。四年間に各自の能力で学び得る限度まで学び過ぎないうちは、大学生に認められた一人前の資格をまだ得ていないのである。で、年令がどの位長じていても、学識がどれ程優れていても、学生の地位にある間は、いやくも研學以外のことに専念することは許されぬ。本分とか責任とか個人論理的表現によらずとも、これに背

くことは、自己のみならず自己の属する社会の進歩の停止、反動により懲罰を自然に蒙る事となる。体育も情操修養も其他一切の行動には大学にある間、研學に伴う必要あるもののみ、しかも学問と両立してのみ意義がある。必ずしも研學に伴う必要のないことや、研學と両立不能の事は、もし望むなら大学を去った上で専念せねばならぬ。一般人には許される事でも、自ら進んで学生たる以上は許されない制約が当然ある。学生体育の持つ制約も其一つである。柔道部の十年もこの戒律格守への専心の歴史である。師範諸先生の飛脚、主将其他幹部から部員全体への統制や苦言等々が、今日の学生体育の意義に背かない柔道部を作り上げたものである事を忘れてはならない。またこれが今後の発展の唯一の指導精神であることも銘記されなければならぬのである。

への道であると聞いて居ります。

さすればこそ、柔道部が十年の短時日にして今日の如く、学内外に対して有力且優秀なる部になったのもむべなるかなであります。

斯様な立派な武道スポーツが今日迄マスコミの隣にかくれていたのが不思議でなりません。昨春は我が関西TVが、全日本大学柔道選手権大会を大況し、更にテレビ武芸帳にて放送する等致し、PRに微力を尽しましたが、斯道関係者、現役、OB一同の御努力に依って今後益々の御発展を心から祈ってやみません。

(関西テレビ常務取締役)



同志社スポーツOB連盟顧問

大宮 隆

同志社創立八十五年という記念すべき本年が、また体育会奉法部創立十周年に当る事を承り心からお慶び申し上げます。同志社教育の根本精神が知育、徳育、体育にありクローバーの徽章がこの精神を示していることは今更申すまでもありませんが、徳育は体育を通じて自然に体得されるという事実は、最近特に再認識されて来ております。この意味において、創設期とこれに続く発展期の十年間ひたすらその道を正しく進んで来られた皆様の御努力に対し敬意を表するとともに心からお祝い申上げる次第であります。戦後のスポーツ界は非常に発展を示して参りました。これは国民全般の体位の向上にバックアップされて来たことがその原因の一つであろうと思うのであります。が、反面精神的訓練の面においては、むしろ戦前に比べて、まだまだ反省を要する点があるのではなからうかと思いません。このことは単に奉法部の問題としてではなく、スポーツに志すものの問題として特に今回のオリンピックを通して、もう一度検討して頂きたいと思う

のであります。貴部がこうしたスポーツ全般に関する諸問題とも真正面から取組み社会の健全化

時代劇と拳法

と皆様御自身の向上のために一層努力されることを祈念しお祝の言葉にいたします。

宝酒造株式会社専務取締役

昭和十二年法学部経済学科卒
ボート部OB

最近時代劇出演が多くなって、私も剣道、柔道、空手などの武芸一般に接する機会が多くなって来ましたが、所謂チャンバラを演じていて、一番気になるのは、やはり何の合理性も無くばったと人を倒すことの矛盾です。演じている方は勿論のこと、観客の方でも、昔と違って、何かそういうことに不自然さや反響を感じられる方が多いようです。話の上で英雄を造る面白さと言ってしまうばそれまでですが、最近では、TVでも、やたらピストルや刀で人命を粗末に扱うストーリーの子供に及ぶ影響が問題になっていくと聞きます。ですからこんな新しい時代の中で武術の伝統を維持するには敵を倒し、敵に勝つ術という過去の一般の武術に対する解釈を捨てさせ、誰もが簡単にマスター出来る護身法として、一つの勇壮なスポーツとして武術を価値づける必要があると思えます。

拳法は、中国から伝えられた拳による技だと言っておりますが、武器に頼らず、呼吸と力の配分だけで人体を最大限に活用し、尚且、筋骨の逞しさ、美しさを思い切り誇示出来る最も身近な武道だと思えます。私も機会があれば是非研究して、映画の中の合理的な立廻りの一つとして此の技を取入れたいと考えております。最近柔道をオリ

ピック種目に加える運動が起っていると聞きますが、皆様の御努力により、此の拳法も近い将来には五輪種目に加えられ、普及されて、より多くの人達に親しまれるスポーツに育たいことを願うと共に、同志社大学奉法部の名が広く海外にまで轟く日の一日も早くんことを卒業生の一人として祈ってやみません。

(昭和二十八年同志社大学経済学部卒)



田村 高広



スポーツOB連盟顧問

千 宗 興

同志社大学拳法部が創立されて茲に十年、本日その十周年記念会を開催されま
す事は校友として寔に欣快に堪えませ
ん。

創立日尚浅きにもかかわらず、貴拳法部
が斯くも異常な発展を遂げられた事は、
偏に諸先生、諸先輩の並々な御指導
と御支援による事は勿論であります、
他面全部員諸君が常に一致協力されて拳
法の真意を十分に会得され、技を磨き、
心を練り、スポーツ精神を大いに高揚さ
れた結果によるものと堅く信ずるもので
あります。

拳法の奥義はまことに茶道のそれと相
通するものがあり、人格の陶冶と技術の
練磨によつてはじめて完成されるのであ
ります。

新島精神に生きる同志社大学の拳法部
が今後益々自重自愛されて、その真髄を
十分に發揮されん事を切に祈るものであ
ります。

（裏千家若宗匠）

昭和二十三年同志社経済卒

同志社大学体育会所属の三十五運動部
の中で拳法部の歴史は新しい方である。
それでも昭和二十五年に大阪の天王寺高
校から入学した岩佐君らが中心になって
部が創設されてから今年で十年目を迎へ
た。その間の先輩や、部員や、関係者
各位の苦心と努力は、並々ならぬものが
あったと思うが、今や立派な部に成長し
て全国的にも活躍していることを心から
喜んでいる。

わが国では十年を時の流れの一区切り

拳法部創設十周年にあたって

私案を一つ

同志社大学教授体育会顧問

田 淵 潔

にすることが多いが、拳法部もこゝで次
の飛躍に何か考へて見てはどんなものだ
ろうか。

およそスポーツといへば原始時代の走
跳投、格闘などの人間活動が各々の異つ
た国民性と、異つた環境のもとに長い時
間を経過して組織化され形式化されて現
代の各種スポーツに発展してきている。

太古の人々たちが生命を賭しての格闘
技からは、紀元前、古代オリンピック種
目となってパンクラチオンや、ボクシン

グ、レスリングとなった西欧の流れと、
日本的には神話の国づくりに出てくる神
々の「力競」から、紀元六三〇年の野見
宿弥と当麻蹶速の天覧相撲を起源という
現在の相撲や、武術として発達した柔術
などがあげられる。また拳法の型として
は中国では古くからの国術としての大極
拳法、太極拳法、少林寺拳法が行われて
いた。特に少林寺拳法は釈迦から達磨大
師に伝えられて少林寺では修業者に学術
審査と並んで拳法の試験が行われ、修業

者必修の資格であり、条件とされていた
とか。さらにこの分派は、薩摩の島津家
に武器一切を取りあげられた琉球で空手
となつて発達している。日本ではこの空
手の型に重点をおくに対して、防具の面
、胴、グローブなどをつけて競技形式に
進めたのが拳法である。大学スポーツと
してこの空手も最近では試合形式をとり出
して防具が問題となつてきている。こゝまで
くると拳法と空手は、その伝統や歴史、
或は精神的な面は別として形式的には殆

ど同一のものになつてくるのであるまい
か。元米が源を一つにする拳法と空手で
ある限り、こゝらあたりで二つが一つに
合流することも考へられないことでもあ
るまい。勿論、それぞれの宗家なり、流
派があるところに、こんなことをいへば
お叱りをうけるかも知れないが、第三者
であるが故にかえつて飛躍して提案も出
来るといふもの。すでに武道からスポー
ツへと転換している現在、ともに身体の
錬磨と精神の修養を第一目標としている
からには、大学スポーツとしての新しい
在り方を同志社のあたりから切り出して
見てはどんなものだろうか。十周年を契
機に、あえて拳法部の先輩、現役諸君に
私のかねてからの腹案をさらけ出して見
た。創立十周年のお祝いのことばが、と
んだところへ脱線したかも知れませんが、
おゆるしを願いたい。

合 宿

に参加するOBの面々夜行列車
の車中一睡もせず学生時代と同じ
くワッワァキヤァキヤァ寝て明日
の練習にそなえなければとOBのO
B連中気をつかつて寝る場所を譲歩
するも、一向に寝ず、そのわけは明
日の防具練習がきついなから寝なかつ
たら監督がつけさせないだろうと思
つての事、防具のきつさ死ぬ迄忘れ
ずの一幕。

受け継いだ北村光雄委員長の大局を把握するに敏なる非凡なる才智は、部創設趣旨の説明に多言を要しなかつた。体育会規約の第×条、本会に新たなる部の創設を申し出るものは二カ年回同好会として活動し、その間の練習実績その他事項を場案の上部の新設を許可する。勿論同好会中予算の割当は無いのである。翌二十六年三月に二カ年の同好会活動の期間が満了するハンドボール部と共に、実績の少い我が同好会に対して異例の措置として金五、〇〇〇円の予算が支出されたのは特に懸命の努力が認められ、天の神に通じたのか、それとも私の政治力が効いたのかは兎に角、當時としては特に早天に滋雨、有難く頂戴した。

此の年の十二月十四日、吹田在日本拳

法会々長沢山勝先生から次の如き便あり



奥村 嘉郎

丁度自分の主持時代は拳法部創設期の岩佐先輩のバトンを受けて現在の黄金時代との過渡期的な頃であり、道場



北村光雄体育会々長

「……現下学生拳法の進展に鑑み来年度より関西の拳法学生連盟なるものを結成し各大学その力を協賛させて、その發展を図りリーグトーナメント或は対校戦等の儀を行い互の向上を期し度く、この件に関し来る十二月十七日(日)午後一時より大阪市北区梅ヶ枝町の矢野茂次商店事務所(市電梅田新道東へ約二丁宇治電ビル前)に於て下相談会を開き意見の交

もなく御所のグラウンドで厳寒の時期でも、素足で練習にはげんでいたのが、工学館の隣に物置同然ながら、始めて道場が出来た時は実に嬉しく、部員と共に何れも何れも味をみがいした事を記憶しており、現在の立派な新道場にいくにつぎ當時を回想します。又、宿敵関学戦では同大チームの大將として出場、打倒関学の意気に燃えながらも引分けに終り、無念の涙をのんだのも昨日の如く感じる次第。

昭和三十一年卒、現在、宝酒造株式会社本社勤務。

換なども致度く就而是非、貴部主将、副主將或はマネージャー等、幹部の御出席を御願ひします。右学連創立に關して御通知まで申上ります……」本学からは、上田、柴山、私の三名が出席し、関大主将金井清重氏作成に掛る「日本拳法学生連盟規約」を原案修正の上満場一致可決し我が国に拳法の学生連盟が出来た最初の決定的瞬間は師走も押し迫ったあわただしい寒朝の中、傘下九校の委員のパンザイの声は宇治電ビルにこだましていた。

昭和二十六年一月七日付沢山会長からの手紙はコーチに中沢孝三段を推薦する旨記してあった。

凡ゆる活動の源泉が人材と経済力に依ることは古今東西万代不易の事実である。我が国に於ても神武以来変らざる大原則である。その大原則の半分の要素に当る経済力即活動資金を充足さす目的で昭和二十六年四月の四月人の心のかれ初め第一土曜日、大阪は本町の舞鶴会館に於て第一回のダンスパーティーを主催した。参会者約五〇〇名で純利益一万円程であったと記憶する。収益はとも角として、このパーティーは「同志社大学拳法部」として対外的に打ち出したので、体育部の認可は未だ同好会であつたため、当然には体育会規則に反する訳であるが昔から、理屈と實業は何処にでも付く、とか、ものは言い様、非は切り様、と言われる如く、体育会本部から苦言が出

蜜雪時代

によれば入試競争率就職状況多で上位三校は慶早同との事試みに本を組むと見ると入試競争率は早同は同率の十三倍、就職状況は慶早同の順で98多強を示して居る。

の前に、此方から「既に部として対外的に打出したから何んとか早急に部に認めて欲しい、対外的な信用もある事だし」と申し出た上、種々理屈を述べた後、次回主将マネージャー会議にて諮るとの事にて空手部、ボクシング部、相撲部、ラクビー部(當時門戸主將天高出身)等有力部には予め渡りをつけ、援護射撃を約束し、五月初旬のマネージャー会議の席上満場異議なくチヨンチヨンチヨンと手を打った。加えて金二万円也の予算割当は特に金メダルの成果であつた。曲りなりにも手製の防具が二人分揃つたのは言うまでもない。手製防具は実に使い易くその上心がこもっているせいか、随分と大切に永らく使用に耐えて呉れた。この点今日の現役諸君は防具管理に一考を要する処である。昔から修業の道にある者が、その道具を粗末にしてその道に大成した例はない。

話は少し精進に逸れたが、その年の日本拳法会は本部を大阪市北区梅ヶ枝町の矢野茂商店事務所に移し、更に日本拳法学生連盟は旧来の関大、関学定期戦に加



思うに昭和二十六年秋、西宮体育館に於ける開学戦に於て俊敏飛躍の如き早業で敵将を仕止した試合が印象的で、練習に於ても常に努力（投下エナジー）とその効果の科学的管理に留意され科学的近代拳法としての練習のあり方に先鞭を打たれたが、そうした氏の考え方が今日企業経営にそのまま応用され科学的経営管理の究を如何なく発露されて、三〇〇年の暖簾を誇り、産業界の中核としての三木須業（株）の副社長として重きを為して居る。

をつくり有様にて関大を降し優勝を為し遂げ、余勢をかって備大定期戦は至らば後米岡マニョトバ大学へ留学した北村正次郎君が七人抜きを決勝を為し優勝した。十二月三本会長は華燭の盛典を挙げた。前記大勝はよき贈物であった。

此の年、大阪商業大学に、吹田昇竜館道場出身の小松昭八郎君、相馬雪正両君等を中心にして拳法部が出来た。浪速大には、阿倍野高校出身の長沢君が拳法部を創設した。

昭和二十八年、日本拳法学生連盟の気運は関西に於ける地盤も一応固まった現在、一步関東へ踏み出すべきではなからうかとの結論に達し諸先生を中心とした日本拳法会上層幹部の意見も一致したので、その進出の資金として四月二十九日に宗エ門町の「メトロ」でダンスパーティーを催した結果約十五万の資金を掌中に



東京読売ホールに於る公開試合に上京する同志社チーム

納めた（時の学連車下校は阪大、市立天学、高天、関学、関大、前科大、同大、浪大）

六月十九日午後五時から東京有楽町の



才一回徳島合宿

読売ホールで東都初公開に及んだ。翌二十日付報知新聞、読売新聞、日刊スポーツ等が好評評に終った公開試合の模様を写真入りで報じていた。此の年四月は参議院議員選挙が行われ徳島地方区から〇三本氏の父身吉郎氏が立候補され怒々当選された。地元学生桂、藤田、河中、川真田君に加えて私が拳法部を代表して及び半年に及ぶの真似事をした。

七月十九日、友良之祐氏結婚。拳法東京進出準備の為秋の予定を繰り上げられた由。

七月十三日、日本拳法会幹部会を大阪西区江戸堀北五十三和田慶三方日本拳法会連絡所にて次の議題を審議した。1、東京公開に対する報告2、技術統一に関する件3、会則設定4、本部及道場建設の事。

此の年夏の合宿は八月三十日より一週

間小豆島で行われた参加者三十名。尚この合宿で最後の仕上げをした森良之祐氏は弟子小西良重三段を同道して九月十三日上京。東京開拓の事実上の第一歩が文字通り踏出された。嵐軍奮斗の連続を血のにじむ様な努力で克服した結果、十月三日に青山レスリング会館にて東京の道場開を行われ沢山会長も出席された。私も東京開拓に側面的に精力を捧げ度いと思ひ立教に拳法部を作る工作をしたが、残念なら不発に終った。

此の年十一月二十八日関学大と第一回の定期戦を行った。11-4にて完敗。奥村君第二代目主将となる。

昭和二十九年、日本拳法会東京本部が東京世田谷三軒茶屋に設置される。沢山勝先生改名し沢山宗海となる。東京開拓に孤軍奮斗中の森氏からの便りによると



才二回徳島合宿

加島 郁雄

OB会が会報を作るといふ知らせを聞いた時は、まったく、うれいと思いません。毎年優秀な選手が生まれ、そして四年間の喜び、苦しみを越えて、卒業してOB会員となっていくのですから、五十人を越す現在の会員は、この値しを行うのは、全員の日頃の希望を裏手に移したものであり、又、この実現に御尽力された三木会長、岩佐副会長を始め、諸先輩の努力に深く感謝するものであります。

私の練習は、御所の北東のひろっぱを使って始まりましたが、猪崎、新谷両君達と、毎日、竹任うきをもって、練習前にグラウンドを掃いて、先輩の来るのを待ったものです。その後、諸先輩の東奔西走の甲斐あって、道場を持つ様になりましたが、それからの同志社生活は、拳法に明け暮れた三年間ということになりました。特に奥村、福岡猪崎、小門(旧姓渡路)東野の諸君と共に、対、関学定期戦に始めて、優勝カップを手にした喜び、そして、その

夜の、酒の味の極上だったこと等は、今でも時々、懐しく思い出しています。又、福岡君と二人で、当時、拳法部を作るべく、クラブとして活動していた関東の地、慶応大、立正大、中央大、立正大の合宿に加って、練習した事など、関東各大学拳法部の黎明期の思い出話になるでしょう。

合宿の思い出も沢山ありますが、眉山の二階から皆の黒帯をつないで脱走?に成功し、眉山にかかる月を見ながら蚤を兼ねたり、小豆島では、町まで出て、最終バスに乗り遅れて、門限に間に合わず、明るく日の練習にノビタ事なども、今では楽しい思い出になっています。

拳法を好み、之を愛し、之に親しむべし。然らば求めずして得られ、苦しまずして達す。

宗家沢山先生の、この御言葉が、私の仕事に対するモットーになっておりますが、確かに、学生生活で得た最大のものの一つでありますし、又、明日への心の糧にもなっております。

元日本拳法学生連盟委員長
昭和三十一年度商学部卒四段
レナウン 商事 勤務

「拳法については新しいセンスで当らなければ東京での普及は望めず練習者防具を改良又組織と、ない智慧をしょっています……」

日夜拳法に明け暮れ、苦悩の中から一歩々と努力の積重ねをし居る森氏の苦勞がよく判る様な文であった。四月二十四日。慶応、明治、日大に相次い

で拳法部が出来る。同志社伊賀上野にて春季合宿、関学OB佐伯四段指導。四月二十九日。メトロにて学連主催のダンスパーティ、収益は各大で分配。

日本拳法学生連盟新理事決定。

理事長	沢山 宗海	関大OB
副理事長	武市 富雄	関大OB
副理事長	当谷 哲治	関学OB
会計監査	秋山 剛	関大OB
顧問	矢野 文雄	関大OB
相談役	中野 満	洪遊会
	乾 竜	昇竜館
常任理事	前田 研吉	関大OB
	中村 完二	関大OB
	山 脇	関大OB
	多賀谷 宏	関大OB
	嵐 豊三	関学OB
	青木 卓	関学OB
	鷲尾 和秀	関学OB
理事	森 良之助	関大OB
	森 正十之	関大OB
	金井 清重	関大OB
	青木 隆	関学OB
	井上 崇	関学OB
	栗本 明男	学大OB
	三木 良治	関大OB
	岩佐 輝夫	関大OB
	大浦 秀雄	関大OB
	泰	関大OB

五月。関西学連大会一回戦前大に敗る。関学定期戦引分。六月。OB会々則設定。

七月十三日。関大天六学会にて沢山・

森会談。宗家沢山宗海、会長矢野文雄氏となる。八月。同志社徳島合宿。東西緊張の中、沢山宗家山脇氏より徳島合宿差し止め命令あれど、既に手配済にて強行す。日本大合流参加せるも余りの猛猪古にアブを出し逃げ帰る。

九月。秋期大会より有料試合となる。十月四日。OB北村正次郎君米田マニエトバ大学へ留学のため大阪駅にて見送る。拳士アメリカへ行く。米大陸の一隅に拳法を披露した最初の一例。十月十七日。沢山、森会談。東西緊張ゆるまず。

明大OB三宅和親同行にて沢山宗家上京日大橋本、中央遊佐の両君出迎え、此の縁に東京学生の反主流派が關動作戦に出るも見事失敗を為し日々その勢力を減じ表立った緊張は徐々に雪解へと向った時恰も東西問題で関西学生OB中、人一倍骨を折った関学佐伯四段が不慮の交通事故で亡くなられた。彼の死は拳法会にとつては大いなる痛手であり生前の功績をたたえて五段が追授された。

日本拳法学生連盟は委員長東君辞任し同大加島郁雄君が第四代委員長に就任した。豪放磊落な彼の連盟運営手帳は拳法発展期に於て将にうってつけであった。後年彼が入社したレナウン商事に於ける同志社株の急上昇を見てもそれがうなづける。

同志社は主将を奥村嘉郎君より福岡孝義君が受継ぎ三代目となった。

(前編終)

(岩佐見男記)



このたび本学拳法部創立十周年を迎えるに当り、こゝに改めてその本質について述べ、大方の御参考にしたい。

拳法といへば、一般には何にか新しい格技か、スポーツのように思われているようであるが、実は決してそうではない。技術的にみるとずいぶん古くからあつたものでたとえわが国の古代相撲がそうである。古代相撲という、野見宿禰と当麻蹴速のやつたもので、當時はこれを「すまい」といつていた。この「すまい」には、突く打つ、蹴るの三手があつたと言われているが、闘技場もいまのような土俵ではなく、周囲に四本の柱を立て、これに縄を張りめぐらして、ちょうど半開のリンク状のもをつくつてその中で素手で闘つたのであつた。(ついで先年土俵ぎわから姿を消した四本柱は、この往時の四本の柱のであつたのであるこんなわけであるから、古代相撲はいまの相撲とは大分趣を異し、拳法といつたほうが当てはまる。つまり防具をつけないう拳法だったのである。

このようにして見てくると、広く海外

にも、残された壁面などによつて、それが窺われる。また東洋には、古くから印度を中心として存在していたし、中国の拳法は、今なおもつて有名であり、かつ盛んである。

ヨーロッパでは、古代オリンピックにレスリングにブギリズムというのがあつた。これら古代拳闘といふべきもので、競技者は互いに拳を粗革で巻きたため打合つたもので、今の拳闘の前身と言われている。そのほか、このブギリズムとレスリングを一緒にしたようなパンクグラ

ころから、独り稽古とか、型の形式とかのはかではできなく、修技上からも万全ではなかつた。

近代ボクシングではグローブの発明によつて、今日のスポーツのなかへ入つてきた。しかし単にグローブだけの着用品では技術的にみて有力な蹴技を使うことができない。また打合いから組打までに闘いを進展させ、相手を抑えつけて打蹴を加えることもできない。これでは徒手格闘という立場からすると、技が至つて部分的になる。

日本拳法の本質

宗 家 沢 山 宗 海

テニームというものもあつた。この蹴技は、相手に噛みつくことと眼の中へ指を突くことだけが禁せられこの二つの以外は何をしてもよいという極めて激しいものであつた。

以上によつて判るように、拳法技術は古代からあつた。しかしこのような古代の形式では至つて危険である。試合といつても、それは決闘と同じことになる。野見宿禰は蹴速と蹴殺している。これではもちろん今日のスポーツにはならない。また練習方法においても、危ないとい

あろう。

以上は、たしかに日本拳法の特徴であり、また創始の経緯もそこにある。しかしこれは単に技術面だけのことであつて、その本質といふことになる。更に精神的なものが加わらねばならない。となつてくる。われわれは技術の完成を圖るとともに、また技術の修練を通して人間性の完成をも圖らねばならない。ただ強いだけではなく、その強さのなかに、美が宿り、品位というものが具わらなければならぬ。それでこそ人間としての強さと言へるのである。

昔の聖賢にはずいぶん強い人が多かつた。キリストは曠野で一夜、ヤコブから格技の挑戦を受け、これを完全に退けた。ヤコブはそれからキリストの弟子になつたといふ伝へがある。また釈迦の拳技も、達摩の拳法も有名である。ギリシアの哲学者プラトンは古代オリンピックのブギリズムにおける優勝者であつた。彼の名プラトンは、実は彼の本名ではなく、彼の同族の広さをいつたものであつた。たそうである。

拳法にかぎらずすべての武技は相手を倒す技であつて、言わば暴力に通ずる技術である。これに礼が加わり、教養が具わるところに、スポーツとして、また体育の科目として社会に入れられ、また古の聖賢たちもこれを修めたのである。高段の技術を高い教養をもつて管理する。これが日本拳法の本質といふべきであらう。

四肢を自由に駆使して、突く、打つ、蹴るのいろいろな博技をつかい、また戦況に応じて投技、逆技などもつかい、天が人間に与えたすべての格闘能力をつかつて闘うところに、本當に価値のある徒手格闘の技術が生れてくるのである。こういう意味から日本拳法は蹴技やその他の危険な博技から身の安全を圖るために、防具を考案したのであつた。したがつて日本拳法の特徴という、防具をつけてする乱階古であり、また禁止の技が極めて少く、自由に闘えるということ



正直に云って、私は拳法という言葉を知らなかったのは比較的最近で、現在行われている拳法についても、知識はおろか、興味すら持っていませんでした。そんな私が、いま拳法についての一文を草するというのは、いささかお門もがいの感がないでもありませんが、もしも見当がいのことを書いているとしても、その点はお許し願いたいと思います。

聞くところによると、同志社大学の拳法部は今年で十年目ということですが、古くその源をさかのぼると時代劇俳優の私にもいささか関係のないことありません。そのもとの形だった少林寺拳法は、何千年も昔、有名な提摩大師の福から発しているということ、日本の古武道にもいろいろの形で取り入れられているのです。この伝統的には大変古い武術が、新しい形に生まれ変わって、合理的、科学的に改善

拳法愚感

市川雷蔵

い感想を述べますと私は拳法がいかにも近代的なスポーツだという感を深くしました。まず、防具は大変バライエティに富んでいて賑やかです。しかも、その練習振りも、殴る、打つ、蹴る、投げ、逆取る、というわけ、人間の持つ全機能を發揮したまゝで自由奔放で、私のような素人の眼には、全く喧嘩の練習のようにさえ見えませんでした。

生スポーツ一般についていることですが、スポーツマンシップ、フェア・プレイの精神がいつしか身につけて来て、単に技がうまくなるとか、腕力がつくという外面的なものだけでなく、もっと内面的な改獲が将来社会人として立つ若い人たちに、大いにプラスすると信じます。

また、戦後の日本で、自由のはきちがえからどの社会でも乱れ勝ちとなつた先輩後輩の礼節というものも、少くとも学校の運動部においては、伝統的に生きていて、そのきびしいしつけの中に、人間として失ってはならない美徳の一つを植えつけて行くことも見逃せません。

もちろん、スポーツと名のつく以上学生スポーツも、その個々の技能を伸ばすために勝敗というものがあるわけですが、それはあくまでも手段であつて、所詮は精神的にも肉体的にも健全な人間を作り上げる一つの修練として意義があるのではないのでしょうか。

いささか、釈迦に説法の感がしないでもありませんが、思いつくまま、感じたままをここに筆にした次第であります。

最後に同志社大学拳法部十周年を祝し皆さまの御健斗をお祈り致します。

され安全性をそなえた現代スポーツの一つとなつたのが、今日の「日本拳法」ですが、私もこの一文を書くため、この間実際に拳法を見学に行きました。その時の偽らな

っておれば、そういう場合大変護身に便利だといえます。ですから、最初は大学の拳法部へ、そんな簡単な動機から入った者も、あるいは少くないかとも考えられますが、在学中の四年間に当初の目的はいつしか、精神修養的な面におきかえられて、学業の体力、技の進歩と並行して人格教養の点でも完全なものになってくるのではないかと考えられます。これはひとり拳法のみに限らず、学

祝

拳法部創設十周年



日本拳法会々長

矢野 文雄

同志社大学拳法部創設十周年に当りまして心からお祝い申し上げます。

この十年の間の辛苦は言葉につくし難いものがあると存じます。我々が常に強調している風格のある拳法、特に学生部面に於ける拳法はその大学の独特のカラ一の上に立って育てられて行くもので、同志社独自の拳法もその例外ではない。幾多の優秀な選手を作り誇るある品性とすばらしい高度の技術とを誇った同志社拳法は同志社大学の権威と尊厳をより高めているのであって、我々の敬服するところでもあります。

日本拳法が生れて約三十年、その内の十年と云う歳月は日本拳法にとつては大きな存在である。この十年のつみかさねはこれを一転機として次の大躍進への出発点であるとも云えるのであります。

ここで私は現役の学生諸君に特にお願い

したい事は諸君の先輩によって築きあ

日本拳法会副会長
社会人拳法会々長

中野 満

「光陰矢の如し」同志社大学拳法部が十年を迎えたと聞き全く此の間の事の様子に思われますが、またじっくりと考えると実に水い様にも思われるものです。十年一昔と云うから同部もここで一大躍進する契機でもありませんか。

同部の創業時代を振り返って見ると本当に良く頑張っていてこれらものと感心させられます。其の頃は道場も無く同志が集って御所の一角の青空道場で酷暑は汗玉となって淋漓と流れ、厳寒は又比叡おろしの寒風に肌を吹きさらし小石に素足の皮

げられた同志社大学拳法部の強固たる存在と、その底に流れる精神と高度の技術をより更に高揚してフェアープレイの精神に徹した人物が養成され、他の運動部に比してより高い存在であるよう努力することを願っています。

由緒ある「同志社」の学風の中に、又特色ある風土の中に生々発展して行く同志社大学拳法部は恵まれた存在である。この環境にあって十年の苦心の賜物が今日の誇りある同大拳法部を特色ある存在たらしめたのであります。

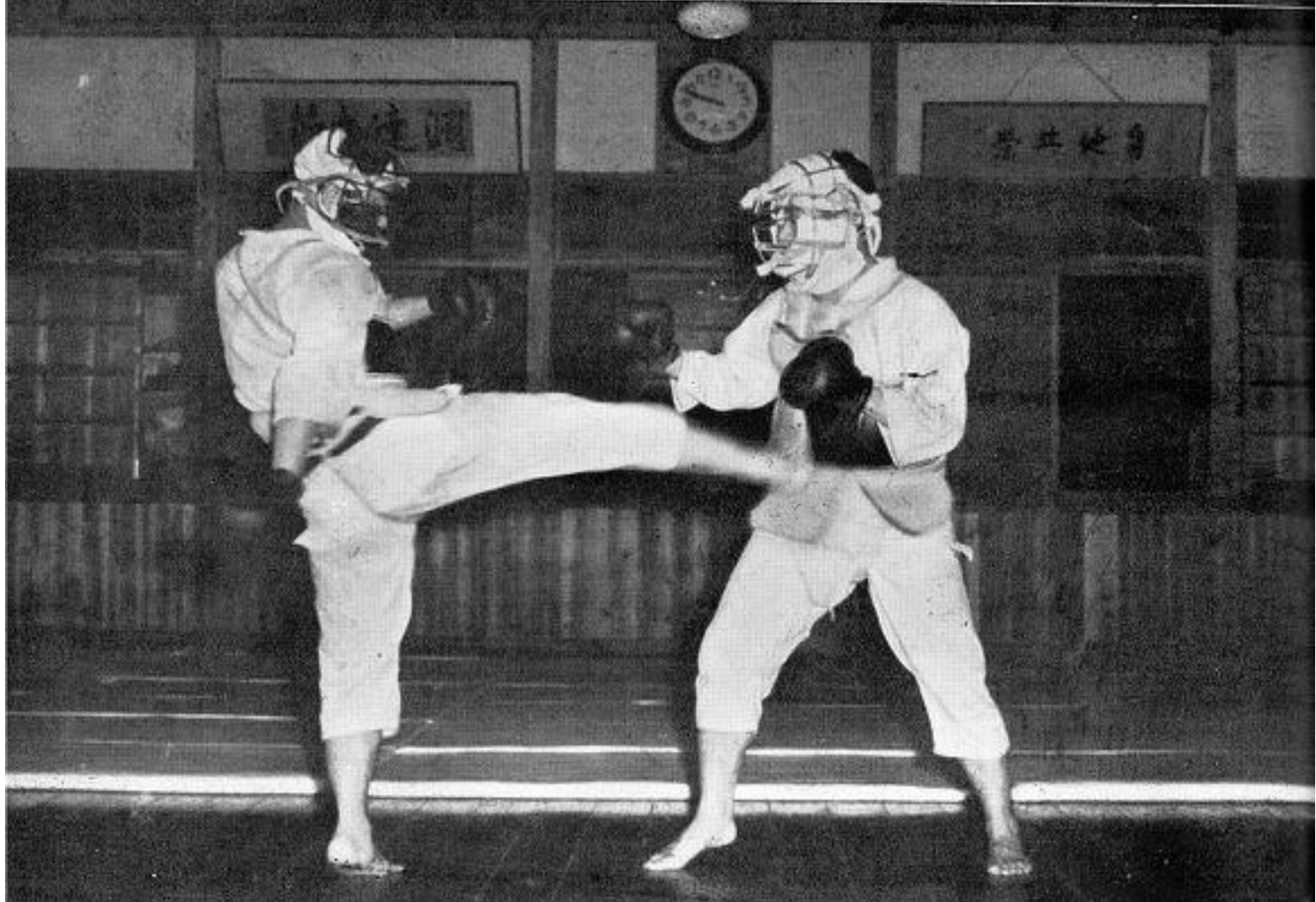
ここに於て榮ある同志社大学拳法部の將來の大発展を祈り創設十周年の御祝の御挨拶と致します。

を振り肉弾相搏って猛練習をやってこられたものでした。当事岩佐見男氏が主將の任におられました。同部の統制把握等立派なものでした。その頃私も毎週土曜日に指導に行っておりましたが部員各位の節度厳格品位等立派なもので私くしこそ教えられるところが多々ありました。その努力が実って剣道場を借りうけた。その後直ちにたしかボクシングカレソング部のいづれかと共同で道場をもちそれから三、四年後にして堂々たる新設拳法道場を建設されたわけでありませぬ。

そして昨年でしたか運動場新設で各運動部と共に現在の場所に移転されたものです。何事によらず出来上ったものを種々批判することは容易なものであります。如何なる小さいなものであっても新しく作ったり考えだしたりすることはなかなかなまやさしい努力で成されるものではありません。

日本拳法の大学に於ける活動は近年とくにめざましい発達普及をなしつつありまして全国で二十校になんなんとしておりますが中でも古くは関西大学、関西学院があり次いで同大になっておりますから古くから云々も其の責任は重且つ大であるわけです。日本拳法会も来年は三十周年を迎えるのでや々と成年に達しようとしております。現在迄もいばらの道を歩いて来たわけでありませぬが向後も愈々深くけわしい坂を歩るかねばならないでしょう。同大拳法部にあつても同様で先輩後輩を問わずに私達と共にガッツリとスクラムを組んで新道発展と人間完成の爲め大いに前進致しましょう。そうする事に於てこそ同大拳法部の各位ひとりひとりの発展は云々に及ばず同部の栄光が約束されるものと確信致します。尚ほなほは失礼で當を得ていないのですが此の紙上をかりまして長い年月御案内や御世話かけましたことを深謝致します。

最後に同部がこの立派な十年間を底返として一大発展を成され来るべき秋の全同大会には悔の無い試合をされより良き成績を収められるよう切に念じ同部の万才を申えて御祝いの言葉と致します。





技術編

拳法教室

解説

宗家 沢山宗海

資料収集

四段 米沢 実

(全日本学生拳法選手権者)

日本拳法は拳技と蹴技のほかに組打(投げ技関節技)を加えた独特のスポーツであります。

特色

防具を使用することによって流撃被害をなくし、選手が自由に、力一杯に試合を行い得る様になっているので、流血の惨を見る事なく試合を公開出来る訳であります。防具は面、胴、脚当、股当を用い、手はグローブをはめて試合を行います。この防具によって今迄出来なかつた蹴技を運えた拳法の試合が可能となったのであります。

諸技法

○拳足基本を本とする1連続技、2合技、3応用変化の技と、
○組打における4投げ技、5逆技6蹴技な

どがある。組打技は、別に柔道、相撲などで基礎訓練をすれば効果がある。

形(かた)

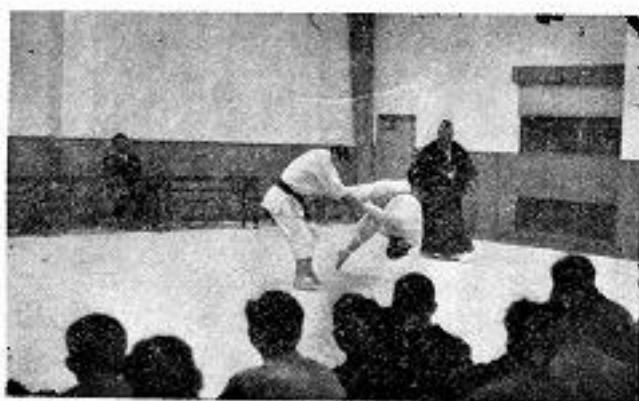
形は攻防技術の基準形を示すものである。拳足の技としては、1両手技の形2片手技の形3波動拳の形などがあり、拳技と組打技を配したものに、1捕撃の形2捕足の形などがある。

乱(らん)

一、乱稽古 これは防具を着装して自由に撃合をする稽古であって、これが拳法の主練習になる。乱の名称は、孫子の「紛々々々、形も乱れて、而も乱るべからず」の意味からとったものである。これが拳法の練習になる。
二、空乱稽古 これは防具をつけずに双方ともに空撃をもってする稽古法である

通常は補助練習として行う。

三、想乱稽古 これは相手を假想して、その仮想に対して行う独り稽古である。基礎練習ともなり、補助練習ともなる。



基本

構え 中段の構え。下段の構え。その他の構え。

歩法(ほほう)

寄足、替足、又足歩、曲斜歩、転回

作拳足

拳二本拳、表拳、裏拳、掌拳、刀拳その他。
蹴足、裏足、表足、踵足、踵、その他

打技

拳技Ⅱ突(本拳)、横打(本拳)、外打(表拳)、斜打(裏拳)、掲打(本拳)。蹴技Ⅱ突蹴(裏足)、掲蹴(裏足)、横蹴(裏足)、踵蹴(裏足)、踏蹴(踵足)。

受技

上受、下受、横受、拘受。

躲技(かわしわざ)

反身、側身、沈身、潜身、閃身、退身。以上は基本の目録であるが、そのおもな練習法は、①薄技は假想目標の空撃か、またサンドバックに対し撃込みの独り稽古をする。受技と躲技は、修技者が相対して、一方が撃込者となり、他方が受け、または躲しとなる約束動作で練習をする。②以上の練習で、ほぼ技形が整ってきたならば、想乱稽古で自由に変化に富んだ独り稽古を併用する。

乱

防具を着装してお互に撃合をする乱稽古に入る。①技術的には、実際に相手と斗う場合における基本各技の運用、虚実に対するタイミング、そのほか応用変化の術を習得せしめるとともに、②身体的、③精神的の両面における強靱性の養成を図る。

この時期といえども、もちろん基本の復習を随行し、乱稽古の前には必ず想乱稽古を行って、技術面と身体面との調整を図る。

逆 技

逆技及び逆手による投技、捕技を行う。

1、関節逆技の理論と原理。

2、捕提の形に基づいて、基本とその応用技を行う。

○基本的な手捕り返えし技

1、廻わし捕

裏廻わし捕

2、滑り捕

裏滑り捕

○応用 技

両手返し、胸取り脱し、斜後取り脱し、後取脱し、打拳捕り、蹴足捕り、その他、捕手脱し、急所把握などを加える。

以上、日本拳法の技に就いて体系的に論述した次第であるが、右の二、三の主なる技について播磨んでの解説を宗家に依ってして頂きます。

拳 技

撃力の総合

突及び各種の打の撃力は、手首、腕、肩、腰、脚、足先等の諸力の総和から構成される。

構えによる前手し

後手の差異

後手の場合には肩、腰の捻りが充分に働き、前手の場合には形の上ではこれが小

突つき

面へ前手の突

面へ後手の突



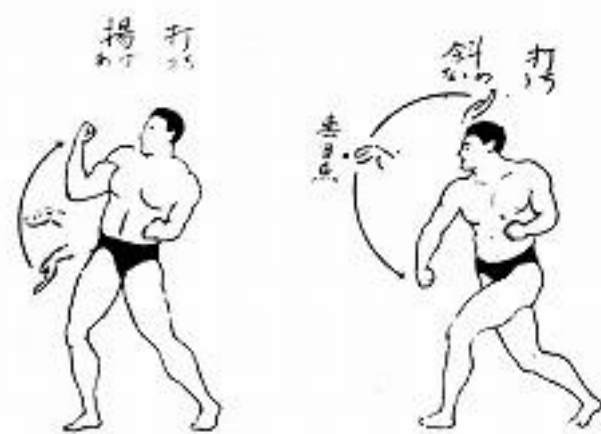
共通の要素

さい。また腰を捻ること以外に腰を入れるといった働きをする。

突及び各種の打は、それぞれ拳の働きを異にし、また腕の力の使い方も各々が違ってくるが、肩、腰、脚、足先の力を綜合した使い方はすべてに共通している。この共通した要素は拳技の基礎となるので初めて修める突技でこの共通の要素を充分に体得して搏法の基礎を作るべきである。

本図の突について撃力の公式を示すと腕を伸ばす力+肩及び腰を捻る力+脚及び足先による伸びる力=突力というようになる。

打 技



つねに体重を支えている脚での蹴は、腕による突技よりはるかに強い力をもっている。

蹴技は、野見宿弥などがやった古代相撲、西欧では古代オリンピックの格技バシクテアムムなどにおいても、有力な決め技としてつかわれていた。

日本人は腰脚足に柔軟性と強靱性をもっているから、この蹴技に最も適している。したがって、日本拳法においても蹴は攻技の花形になる。しかし、蹴る時は片脚で体を支えているために、相手に蹴足を捉えられたりすると、転倒させられる弱味もあるから、この点は充分に注意をせねばならない。

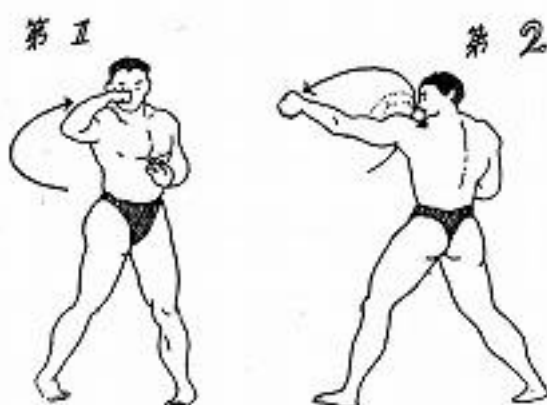
突 蹴 (つきげり)

図は後(右)足突蹴であるが、中段の構えから寄足で一步前進して、腰を捻って膝を上げ(点線図)、相手の腹部を裏足(足先の裏)で、撃線が示すように突くようにして蹴る。この突蹴は、最もよくつかわれる蹴技である。

揚 蹴 (あげげり)

図は後(右)足揚蹴であるが、中段の構えから寄足で一步前進して、膝から揚げて相手の腹部を裏足で、撃線が示すように蹴りあげる。この揚蹴は、相手が前に傾いたとき、また腹間を取るのがにつかわれる。

突き技で、腰の捻り方、入れ方など拳技の土台となるところを、よく会得したならば、つぎは打ち技に入る。突き技と打ち技とのちがいは拳の動形にあるのであって、腰脚の要領、また膝の閉めを利用するところは同じことになる。打ち技には、横打、外打、斜打、揚打の四種類があるが、今回は横打と外打の解説をすることにしよう。



第1 横打(よこうち) 図の第1

図は相手の面(顔)に対する後(右)拳の横打である。中段の構えから一步寄足前進して、右拳を矢印線のように振回させて打つ。横打は突についてよくつかわれる技で、腰の捻りを充分に利かす重撃性のものである。相手の胸(腹部)への横打もあるが、これは休の沈めて打

つこの場合には、水月(心窩部)へ構える手を顔え上げて、顔面を掩護する。

外 打 (そとうち) 図の第2

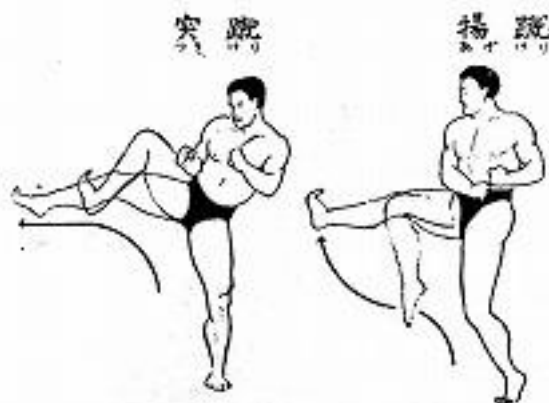
図は相手の面(かすみ、鳥兎など)に対する前(左)拳の外打である。中段の構えから一步前進して、左拳を矢印線のように振回させて打つのであるが、その要領に独特なところがある。この打法の原理は、動物の尾、または鞭などの打撃からとったものであるから、よく手首の柔軟性を活して、腕を鞭のように働かせ、拳を鞭の先きにつけた錘にするような気持で打つようにしなければならぬ。重撃性はないが軽妙な寄えで前身を利かすところに、その特長がある。脚に対してもつかえるが、やはり面の放あのはうが有利である。

尚、横打外打ともに、拳技の要諦であるところの、1打ったときの拳の締めと、2神速な拳の引き(横打では廻わし引き)を忘れないようにすることが肝要である。

斜 打 (ななめうち)

これは正拳にいうと斜め降り打ちといふことになるのであるが、略して斜打ちという。人間には生れながらに、右やボイルのようなものを遠くへ投げるという身体機能をもっている。この機能を働かせてつくった打技がこの斜打である。図は中段の構えから後(右)拳を振回させ

その裏拳(りけん)で相手の鳥兎(両眼の中間)へ打ち込み、そのはずみで拳が更に上へ振降された形ちである。力の入



れ具合は投球におけるオーバーブローと同じで基本としては約四十五度斜めに打降す。①投球と同様に、手首の力、すなわちスナップをよく利かすこと。②腰をよく捻ること。③打降するときには体をやや沈め、体重を拳にかけること。これが要訣になる。

揚 打 (あげうち)

これはボクシングにおけるアップブローットに相当する。相手と近接した際によくつかわれる打技で、至って強い撃当効

果がある。

図は中段の構えから、後(右)足を一歩踏みこんで、後(右)手で相手の腕を打ち揚げた形である。①体を揚げる力に、②体を打ち上げる両脚の伸力が加わるところに撃力が強化される。③更に、これも手首の力を加えると、その撃力は最強のものになる。

膝蹴

拳法において、蹴技が有内な攻技であることは、野見宿禰の昔から今も同じである。その蹴技の最も基本的な突破については、前に解説したところであるが、今度はその蹴技の短技ともいえるべき膝蹴について述べてみよう。というのはこの膝蹴は格闘において、つかう機会が意外に多いからである。



拳足の撃合いでは技が決まればよいがそうでないときには要々組打ちへと移行する。これは両者が互いに撃突するからであって、ボクシングの場合などでもよくクリンチになるのを見てわかるのである。こんなときには組みつくと同時に相手の腹部とか股間に膝蹴を加えること

は垂って容易であり、かつ有効である。これは拳法の試合においてばかりではなく、柔道などに襲われた際などの護身法の技としても極めて効果的である。

独習法

この練習法は、基本練習で行うものであるが、まづ両手を伸ばして肩の高さに上げて、相手の両肩を押へることを仮想し、右足を後に引いて構える。そして相手の上体を引落すような気持で両手を引降し、これに合わせて、右膝を上げて膝蹴をする。

つぎは両手を前と同じように上げて、左足を後に引いて構え、左膝蹴をする。こうして右左交互に膝蹴の練習をするのであるが、膝はなるべく高く上げて蹴るほうがよい。また蹴上げたときには必ず足先を下へ向けるようにする。こうして足先を下へ向けると、膝がそれだけ勢よく上って、膝蹴の効果が増加することになる。

刀拳打

刀拳は古流柔術の当身として、よくつかわれた手刀のことである。この刀拳打はグローブをつけた防具稽古や試合ではあまりつかわれぬが、蹴技という立場から見ると、なかなか効果のある技で、この技を会得しているだけでも立派な護身法になる。

図の2に示すように、掌側の小指の根



1

元から手首へかけての厚肉部を当所とするもので、主として相手の顔面及び手足の各急所点など、比較的に骨ばった堅い部分の攻撃に適している。とくに顔面の人中(鼻と口との中間)、鳥兎(両眼の中間)、齒(目尻)、両毛(顴部)松風(咽喉部)、村雨(頸動脈部)などの打撃に特効がある。

打つ要領にはいろいろあるが、ここに



2

示す打ち方が最も効果がある、これは波動拳の一種で、波動の原理を打撃に適用したものであって、この要領で打つと速度も撃力も、ともに倍加してくる。まづ

図1の如く、手で軽く振り、手首を深く曲げて(母指を中指腹に密着させて)振りあげ2のように手首を反らすようにして打降す。手首の波動運動と、軽く振った手掌を打と同時に開ききるところに、刀拳特色の打撃力がでてくる。もちろんこの打撃にも、反射的な「拳の引き」を入れないと本当のさきは生れてこない。

本図は上から下への降打になっているが、これを横に外がわへ外打をしてもよい。また斜めに内がわへ打降す斜打、斜めに外がわへ打降す斜外打もできる。これらの打法は、その場、その時の状況に応じて選べばよい。

オシャベリ

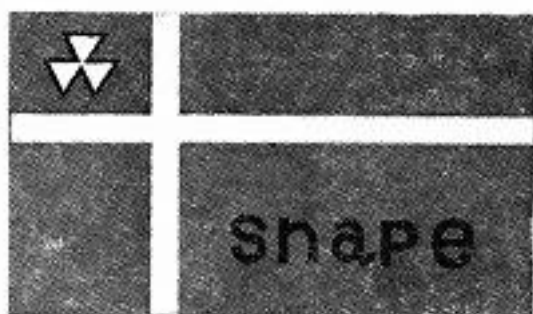
同志社タイムス

の三月号に理事會選舉名簿あり
関西の一流財界人がきら星の如く
並んで居るのは伝統の古い面があるが
学校のカラーにもよる試みに学
生部の家庭調査をみよ。何々会社の
社長重役の息子ばかり、勿論名の通
った一流から三流四流迄種々あるが
一応は社長の息子が同志社は何んと
多い事か。

ある年のキャプテンにのみ走った好男子あり彼は音に聞えたむつつりやで練習のきつい事も定評あり。勿論彼は学生選権保持者で名実共に学生界に於る実力ナンバーワンでもあったが彼の趣味は合宿に出てストリップショウを見物するのが唯一の青春の喜びである。日頃殴られ放しと云う後輩や同輩、行先を推察して後を追ひ、本名を高々と呼出しをかけるとなんと一番前のカブリツキのいい場面、真赤な顔して後迄出てくるのを見て一同大いに留飲をさげたとか(あくる日の練習のきつかった事その例をみず)

「三高、京大野暮臭い、立命、武専はガラ悪いいきな同志社虫が好く」の唄の通り河原町を歩いてみるとチョイトとイカス彼女と歩いているのは殆んど同志社ボーイ、同じ同志社ボーイでも例外あり、それは拳法部の猛者達である、乗馬、ヨット、ゴルフ等貴族趣味の部はMMKらしいが、こちららは失恋が動機で入部したもはや彼女が出来ない淋しさを、ウッパン晴しに入部した者や変った者ばかり、その上部費を払って毎日殴られ蹴られ投げられてのだから世話はない、まさしくこれこそ本当の青春の残酷物語りではないでしょうか

(MMKとはモテテモテテコマルの略)

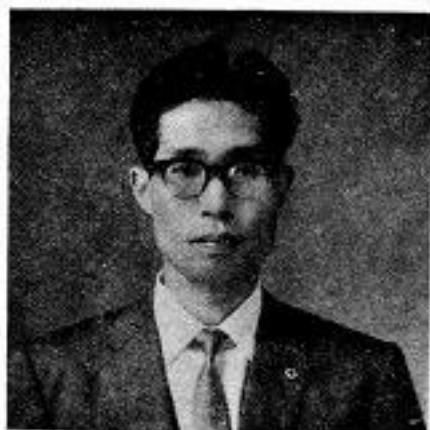


出町は我が町とばかり活歩する我が拳法部員のよく行く中華料理がある大変きれいな店でいきのいい兄さんが学生割引でニンニクをよくきいた餃子を喰べさせてくれる、この兄さんヤケに拳法にくわしいので一同が聞いた所四条大宮で「天一坊」なる屋台の餃子屋を始めて出した頃当時まだ学生だった

現監督がよく食べに行ったらしくそれ以来今日の店を持つ迄六年間のつきあいとの事、今でもここ迄食べに来てくれるとの事であるどうりで監督が我々の飲んだり、しゃべったりした事をよく知ってるはずだと (世間は広い様で狭まい)

M薬品KKに就職したH副将は有名なハワイアン、マニア、ハワイアンのLPなら全部集めると云う、彼は拳法の腕も立つがウクレレを引かしてもうまく、彼の弾き唄いは独特の情熱とムードがあるとの事である。某夜I先輩の御供をして大阪南のさるバーに行った処、関取房錦と間違へられ相撲好きのマダムに大もて、然し色が黒いのが唯一の欠点、夜見ると二つの目と白い歯だけが夜目にくっきり浮び後は甲賀の忍者の如くは又U二型機の如く闇に溶けて見えないと云う。そのあだ名も今問題のコンゴの今後はわからないそのお国「キューバ」である(彼女イワクそれで情熱的なのだとは黒いが南洋じゃ美男の口)

十年一昔と云いますが、目覚ましい
同大拳法部の発展ぶりをみると、OB
会長の本木良治氏をはじめ岩佐昌男、
桂一三郎、藤田泰男、福岡孝義氏ら初
期の人々が京都の御所で落葉を払い、
石ころを除け乍ら野外練習をしていた
頃のことである。昨日の事のように鮮
かな記憶となって甦えつつあります
それと共にこの貴い開拓者精神が、そ
れ迄関西大学と関西学院大学だけであ
った拳法が京都の同志社大学に出来た



ことよって、一躍関西の拳法として
飛躍したことも見逃せない事実であり
ます。同大に拳法が出来た翌年の夏
(二十七年八月)、私が指導していた
徳島の大滝山道場で、合宿練習をし
ましたが、そのとき前記の人々の盛んな
る意気を思い起しますと、現在の隆盛
もなるほどと領けます。合宿の翌年は
また私が東京へ出て来た年であり、立
正大学をはじめ慶応義塾大学、明治大
学、中央大学、早稲田大学、日本大学
といったように、次々と各大学に進出

し、その他の大学間にも創設への胎動
を見えています。その上、警察庁には建
補衛として、陸上自衛隊には徒手格闘
術として拳法の活用をみるに至ってお
ります。これはかつて同大が拳法をは
じめたことにより関西の拳法として飛
躍したように今度は日本の拳法として
大きく発展する段階に達しました。十
年の歳月はあまりにも充実し、目まぐ
るしいほどでした。そこには一昔とい
った悠長な感懐はありません。すべて

日本拳法協会師範

森良之祐

が昨日のように、あの京都の御所や大
滝山時代のような情熱と若さが森々と
して私の身辺をとりまいております。
関東の拳法はその意味で初期同大時代
からの延長であると申しても過言では
ありません。この十年炎々と燃えさか
った拳法は日毎に名を挙げてゆく同志
社の名譽と共にこの先何十年、何百年
といよいよ炎を高くしてまいることで
ありましよう。この栄えある創設十周
年を契機として更に充実した発展を心
からお祈りします。

日本拳法の歌

横山賢一 作詞
伊藤祐春 作曲

- 一、ひとたび起てば 伝統の
はまれ受けつぐ 気はくあり
熱き血汐の たぎるもの
ここに集えり 若人われら
おお おお 日本拳法ノ
ともに歩まん 拳の道
- 二、眉上げ意気も 高らかに
かぎす不易の 旗じるし
胸に希望を 抱けるもの
ここに集えり 若人われら
おお おお 日本拳法ノ
ともに鍛えん 拳の技
- 三、協和の力 友愛の
こころはぐくむ 四季の汗
かたき使命に 生きるもの
ここに集えり 若人われら
おお おお 日本拳法ノ
ともに築かん 拳の徳

同志社人質を語る前に先づ同志社風俗の歴史を紐といて見よう。

愚えば新島先生が当時まだ封建色濃い京の地に敢然英学校を開いた時、世人はキリスト教と外人教師の姿を見て、「同志社はバク臭い、珍らしい」と好奇心をもつてみた。

又その当時の学生は蓬頭にも赤毛布（アガゲット）をかぶり肩の袖もあらわな股引という異様な風俗、女学生もやたらに大きな袴割れを履につけてシャナリシャナリと歩いた様である。時うつり庶本バンドの連中が九州より同志社に移った頃には黒紋付を着、大刀の代りに木扇

同志社人質と同志社スポーツ

拳法部監督 藤田泰男

キリスト教の学校としての伝統である。これらの歴史より同志ボーイの氣質を養ふと次の様な學論が出るであろう。

○悪い面として

- 1、華美である
- 2、物事を甘くみる
- 3、ネバリがない
- 4、油力がない
- 5、骨がない

○良い面として

- 1、上品である
 - 2、清潔な感じ
 - 3、おとなしい
 - 4、あっさりしている
 - 5、明るい
 - 6、規範がしている
- ざっと以上の様なものである。私もいつしか扱られる方より教える方に廻つてもう三年、これらの同志社人質は同志社

スポーツにとって手痛い伝統である。我々OB一同が現役のスポーツマンに頭む事は、真の校祖設立の趣旨を理解し、かつての庶本バンドの如き豪放なフアイトある同志社精神を諸君で築いていただきたいものである。最後に新島先生の言葉を諸君に送って筆をおきます。

汝、一戦して敗るるも已むなかれ、再戦して已むなかれ、三戦して已むなかれ、刀折れ矢つきて止むなかれ、骨砕け血つきて已むべきのみ、真理のために應にあらざるは吾人の生命又無用ならずや、

新島 襄

をたばさみ、厚歯の下駄で都大路せましと練り歩いた。やがて大正となり大戦景気の波にのってか、カンカン帽に白がすりという流行の先端の風俗が同志社にあらわれ、昭和の初期にはもうダブルの背広にセーラスボン、細身のステッキと、あてもない花束をかかえて歩く同志社ボーイとなった。「英語と音楽の積古をしい金持令嬢歓迎」と世人に手厳しい世評を受ける貴族趣味的学校となりおぼされた。戦争中はベンを現河にかえて予備学生、見習士官と陸海空に多くの犠牲者を送り今日にいたった次第である。この間一頁して流れてる学風は、ハイカラなき



昭和三十五年春合宿 於小豆島

一、拳法部創設十周年を心から祝して。

同志社大学体育会傘下三十五部の今年度活動の華々しさと、各部の意欲の盛んなることは、近年になく顕著であると自負しているのではありません。そういつた同志社スポーツ隆盛の時に、同じくして、貴部が創立して十年目を迎えられたと聞き、一層その意義の深いことを痛感する次第であります。聞くところによりますと、十年前の今頃、いまの如きスポーツ熱の盛んでない時に、貴部先輩が、単身拳法部の創設に献身されたものであります。今日、拳法部が同志社大学体育会にあってその占める位置の大なることは自他共に認められておりますがその基礎は、先輩の力にあづかるところも多大であったと云っても過言ではありますまい。特に又、拳法というスポーツがまだまだ一般の学生に親しまれにくいという悪条件にもかかわらず、部員が減るところかふえる一方であった事実は、更に一層、貴部の底力の示すところであると考へます。

ここに心からの祝詞をのべて、今後の発展と好成绩樹立にまい進されんことを願うものであります。

尚、此のたびは貴重な紙面をいただくことが出来ましたのを幸いに、貴部十周年を記念して、現在同志社スポーツを更に良くしようとする建設的な方向が取られている事実と、体育会の活動の一環を披露いたします。

一、大学当局が課外体育の重要性を認識しはじめた事実。

マス・プロ教育の大きな欠陥の一つは学生間の人間性欠如に現われていばと考へます。毎年、大量に学士を社会に送り出さねばならない私学のもつ宿命が、個人個人の指導と教育まで到底かまっておられるものではありません。そこで、近年とみに課外活動の重要性が目ざり、育成へのウエイトが置かれる様になりました。同志社に於ても、その通りで

は大いにありましよう。

一、OB会の組織が再編成されます。

散発的であったOB会の方も、厚田敬馬理事長、北村光雄幹事長を中心にして意欲的な動きがみられ出ております。同時に体育課の先生方のお世話によって監督会の組織化が計られ、既に、二、三回にわたる会合によって、着実な成果が生れてきている様であります。先輩の力があるかないかで、その部の空気は雲泥の差がある様です。監督会の組織化と活

『拳法部創立十周年を祝し』

あわせて同志社スポーツの現況』

同志社大学体育会

委員長 上田 彰 二一

あり、課外体育の重要性について脚光をあびているのであります。今年度に於いて設けられた、大学長が運動部長、コーチ、監督の任命をして、経済的な援助と教育的責任をもたすようにした制度。

新町校地の大半を費した体育施設の拡充。その他有形無形の援助がそうでありま。とはいえ全国的な視野に立つならば、まだまだ不完全だという気持は、やはり、残るようであります。関西の諸同志社の名にふさわしいかどうか、疑問な点

運動の開始が、私選派役にとって大きなツク・ポーンが出来たと喜んでおります。監督会の充実と、OB理事会の財政面とのタイ・アップが成った時、同志社スポーツ一段の飛躍は、云うまでもありません。

一、体育会会員の自治意識の向上と、同志社精神の醸成について。

昨今のめまぐるしい、社会情勢の変化は、スポーツ・マンの自治意識を向上せしめております。特に最近、同志社の学

園におこった、学友会(学生の自治団体)組織の不備をつき、体育会の行動には積極的な賛同がみられました。先鋭化した学生運動家の牛耳る学友会のもとにあつては、体育会の正常な発展は望むべくでなく、金のかかるブルジョアの遊び、としか、見えない指導者が大部分であります。十年來の欠陥を是正するべく、私選は学生大会で組織の変更を決議せんとしたのであります。少々あせりすぎ、良い結果には終りませんでした。

しかし、学園にはびこる病原菌の擴発には大きな役割を果たし、スポーツ団体に対する、不平等な取扱いが明るみになったことは事実であります。こういった活動と相まって、同志社精神の浸透化を計るべく、応援団の協力を得て、定期的な優勝祝賀と激励の集いを明徳館前の広場で行う予定をすすめております。会員のフアイトは必ずや、燃え立つてありましようし、それ以上に、一般学生の関心が深まり、愛校心の醸成に大きくプラスすると期待いたしております。

現役三十五部のスクラムと、OB連盟の結束こそ、同志社スポーツの伝統に一層の力が加かるものと信じているのであります。十周年を一つの転期として、更に充実した傘下の部として、貴部部員は勿論のこと、関係者各位の一層の協力をお願いする次第であります。この機をとすに當り十周年を迎えられた貴部法にあらためて敬意を表します。

十周年に思う

同志社大学拳法部主将 柏木 嗣男



創部十周年を迎えるにあたり、種かしき伝統を築かれ、常に絶大なる前支援を賜わっている先輩諸兄に心からなる敬意

と深甚なる謝意を表します。創部当初の先輩諸兄の努力献身を察するにつけ恵まれた環境で修業に励むことのできる我々

は、尚一層奮起せねばとの念を強く心に誓うものであります。入部以来幾多の諸

藤木 悠

今私は梅田コマ劇場で、がめつゝい奴に出演している。がめつゝいお婆はあさんの息子健太役で、これが父親にもおとらない、がめつゝいお婆を發揮しているが、その舞台の合間、私の部屋へ帰ってみる

と、驚いたことには、がめつゝいにかけては人後に落ちない同志社時代のボン友岩佐吾が来ている。卒業後七年振りで学生時代と違ってデブプりと肥え、さぞがめつゝい健太役のこと、種々聞く、拳法部創設十周年とのこと。思わず指を折って見た、早いものである。突に。

座に君臨して居た。今やっている健太役の金銭的がめつゝいさは全然なく、その代り勝負にかけてはがめつゝいだった。その同じ道場を時間を分け合って使っていた拳法部も当時のフアイトはもの凄くものであった。あのフアイトあればこそ、十年後の今日の隆盛も、むべなるかなである。

諸々の期発展を祈るや切。



当時を振り返って同志社運動部一般に言へる事は、勝負に於けるがめつゝいに欠ける事である。私の居ったフエンシング部からは、今回のオリンピックには田淵君が参加した。

思へば私の在学時代フエンシング部は殆ど全日の王

氏は二十八年間大経済学部卒。東宝の演技担当重役藤本真澄氏の「藤」の字を頂き「藤木悠」とした。本名鈴木悠蔵。学生時代はフエンシング、エッペの全日本選手権保持者。左利きで長身を利用しての突き。には相当の威力があった。

（藤本記）

兄を送り、後輩を迎え年々隆盛になっていく現在も常に要らぬ我々の目的は同志社スポーツの高揚と日本拳法の発展にあります。諸先輩諸兄のあたたかい御指導のもとで激しい練習に耐え、技能の修練に努め実力を養い、より高い人間形成のために錬磨することが目的達成への我々現役の当然の義務であると自覚しています。年々歳々人同じからず、しかし先輩諸兄の開かれ歩まれた道を我々も又全員協力して各々が誇ある同志社大学拳法部員たる自覚を持って歩んでいるのであります。

拳法の道は深く険しい。拳法という輝に結ばれた我々が師弟の別、先後の序をよく守り、互に相親しみ共に相援け手を手を携えて道の精進に励むことは現代の世相に鑑み、誠に意義深いものがあると信じて居ります。やがては輝かしき同志社大学の歴史の一頁に記す我々は先輩諸兄に優るとも劣らぬ一頁を記す覚悟であります。

競争率

オシ+ベリ

は毎年各学部平均七倍から十倍が相場だが岩戸景気のせい、ある部に至っては二十三倍から二十二倍、各年平均が十三倍の相撲部門ある優秀な学生が集まるのは結構だがスポーツは年々弱くなるのはどうした事か。

祝同大拳法部創立拾周年

中 木 重 蔚

十年一昔。想い出は、或る時は永く、又或る時は短かく感ぜられるものです。

現在の学生拳法界の中核を占める同大拳法部の実力に接する時、私はよくも、この技、この闘志、この伝統が培われたものと驚駭の眼を回さざるを得ません。併し、今日の実力は、過去十年、一歩一歩堅実に努力された貴部員一同の切磋琢磨の賜であることは言を待ちません。栄光の陰には涙ぐましい努力が満ちて居る如く、拳には汗が必要です。

私は、昭和二十五年、即ち学生拳法界の神代時代を回憶し、ここに同大拳法部創立拾周年の慶事に衷情を以て、祝言を呈し度いと思えます。

昭和二十五年、同大拳法部創立当時の諸兄の献身的な努力を眼のあたり見て来ました私の脳裏には、当時の幾多の困難な問題を着々と解決し、強固な団結の基に部の育成に励まれた拳友の後姿が明瞭に再現します。私は二十五年より二十九年迄或る時は招かれて伴に土用吉吉の合宿練習に加わり、或る時は、試合場に於いて互いに技を争って来ました。一撃一敵によって巻き上げられた男の友情は、容易に断ち切れないものと信じて居ります。高校時代、同じ拳法にあって伴に

助んだ岩佐君等の献身的な貢献に依って昭和二十五年、同大拳法部が創設された当時は、現在の如く、関大、関学と共に三つ巴になって覇を争う実力を備えた部とは、凡そ懸隔したものであった事は真実です。

当時、学生拳法界は関大、関学の二校に依って雌雄を決せられて居りました。同大拳法部創立と共に俄然、学生拳法界は活気を呈し、市大、府大、阪大、商大等に次々、拳法部が統々と創設され、学生拳法界に一発展段階を招きましたが、同大の功たるや大なるものが有ります。創立後の同大の進出は目ざましく、瞬く間にA級のし上ってしまつたのです。

伝統をもつ関大、関学の強敵と互して覇を争うには尋常の練習では不可能だ。た事でしよう。

爾来、OBに続く現役の努力は先輩を乗り越え益々発展の一途を辿る同大拳法部が、ここに創立拾周年を迎えられる事は、単に貴部の為のみならず学生拳法界にとつて慶賀の念に耐えられません。

「乳児には乳を与えよ、拳には汗を与えよ」との沢山先生の教えを貫き、他校に優る現在のレベルに達した同大拳法部は愈々、発展を期され、学生拳法界をリードすべく、諸先輩を凌ぐ努力が要求される現役選手方の重責は大です。北辺の空より、同大拳法部の今後、益々、合理的な益練習によつて実力を涵養されん事を希うと共に、学生拳法界の発展を祈りつつ、拙文を以て祝辞に換え度いと思えます。

関西大学拳法部主将

浦 田 吉 伸

宗家の御苦心によつて出来上つた日本拳法も幾多の障礙を乗り越え三十年の歴史を持つに至りました。今日ではテレビで紹介され、試合の実況放送が行なわれ新聞も大きく報道し世に認められる様になりました。その間の先輩諸氏の御苦勞御功績には頭を垂れずにはおられません。我が関西大学拳法部と致しましては関西学院大学と年と共に二度の定期戦を持ち拳法発展に努力してまいりました。

そしてこの定期戦が拳法試合に於ける最も古い試合を有し、学生拳法界の竜虎の戦いと自負しております。しかるに近年関西の諸大学の実力が年々、接近し関東勢の力がぐんぐん伸びてきました。その中でも特に創部十周年を迎える貴部の活躍には目を見張るものがあります。学ばねばならぬものもあります。柔い技と、力強いブライト溢れる攻撃での試合運び

に教えられた所がどの位あつた事かもしれません。学生拳法界の貴部棟頭は今後の試合内容を改善する様に思えます。

つい最近新聞で某大学体育会の非行が報られ体育会に関係のある人々には非常なショックを与えたことでしょう。我々は「相手に勝つ為にはまず自分に勝つ」という先輩諸兄のお教えのもとに練習に励んでおります。それでこそ終局的には拳法発展の為強いては人間完成の為となるのではないのでしょうか。ところが残念な事に拳法界三強豪の一つ貴部との定期戦を持たない事でありました。この事が時折我々を考えさせるのです。我々関西大学拳法部として、関・関定期戦、そして関・関定期戦を持ちさらに同志社、関学、関大の三強豪による定期戦を希望致しております。又この紙面を借りて提案致します。それが今後の関西勢のいや拳法修業者の実力向上に役立つと確信しております。我々学校こそ違いますが拳法部に活動する者同志肩を組み合い日本拳法発展に少しでも尽そうではありませんか。最後になりましたが貴部の創部十周年記念を祝し今後の発展を切望致します。お祝いの辞とさせていただきます。

随 想

外地寸描

早川 幹雄

此の度、同大奉法部創設十周年記念行事の一つにOB連中が一篇を寄せる事になり小生には職葉柄・外地飛び歩きの記・等と大変ふさわしい題目を頂戴しました。それでは一つと、原稿を書き始めました見が、取りまとめ方の拙劣さ未熟さの爲に、末成りに成りまして如何にも始末が着かなく成り、題目らしい一篇は次の機会に譲る事にしました。其処で今迄の至極短期間の外航船乗船生活を遡うじ、特にアメリカ諸港中の東岸にあるニューポート・ニューズと、ドイツのハンブルの港の二港について御話ししよう。

其れは小生が東航歐洲線のP丸に乗船して居た時の事です。当のニューポート・ニューズ港に入港し、入港手續を完了しほっと一息ついて自家に居りました見、一人のアメリカ人が小生の部屋に入って来ました。一休何人ならんと尋ねて見ますと当地の牧師との事で、英会話の練習方々部屋に入れ、何かと結構なお説教を拝聴に及びました。小生の応答が大いに気に入ったのか、宣教の手段としてか、はた又、大衆的な見地から、舟人に暫し

の楽しみを与えようと云う隣人愛からか、小生をドライブに誘って呉れました。出港時刻迄あまり時間は無かったのですが気晴しに出掛ける事にしました。駐車場への道すがら種々と行き先を揚げましたが、時間的に最も有利な地点に在る海事博物館に行く事にしました。このNPN港は隣接するノーフオーク港と共に米国東岸の軍港であり、又、造船町でも有りまして、小高い台地から見下した入江にはカキの養殖筏が浮ぶ様子は、呉・広島を想わせるものでした。

平坦な並木路を二十分ばかり走った頃遙か前方に一きは閑静な建物が見え始めあれが海事博物館だと説明され、このエントランスは内心ほっとした次第です。入口近くには新大陸発見者コロンブスの立像が中天はるか彼方を望んで立ち如何には海事博物館にふさはしい風情をかもし居りました。この銅像の下に立ち、彼氏に写真を取ってもらって居た時、館内から見学を終えて出て来た訪米スエーデン艦隊の乗員達が出て来ました。この事を以てしてしましてもこの博物館は相當有名であり、館内には海事関係

の圖書文獻はもとより、土人のカヌーから現代船舶の各部模型に至る迄、全ゆる船を、又、中近古の舟の先の人魚像をかた取った船飾等、説いた説明書と共に整然と陳列されて居ました。



館内を一巡し、中庭に出て見ると一本の立札の側にグロテスクな恰好をした特潜艇の様な物体が有るので近寄って見ますと、日本の呉軍港より捕獲し、持ち帰った潜水艦救助用特潜艇との事でした。斯らした異国で古強者の夢の跡を見ると云う事は、得も言えぬ感銘を与えられるものです。

船達の途中では再び有難い。罪。に關する説教を拝聴し、街角のスタックパーに入ってコーヒ等を飲み乍らこの町のカキの養殖状況を種々と聞きました。何分にも多忙な海上生活を送り、ドイツアイスパッチに追われる其の裡にあって寸暇をこの様に過す訳です。以上にN・P・Nの巻は終り。

次に友邦ドイツはハンブルクの寸描、このハンブルク港は古く栄えた商港都として大変港町らしい趣きのある町です。埠にかつての同盟国、其々の敗戦国のよしみばかりで無く、各国船に対してでも

はありますが、名勝負エルベ河を上り来る時、流れ来る。君が代・と。日本の昔様、水の航海御苦勞様でした云々。の放送にほのぼのとして安らぎとドイツに對する近親感を感ずるの一人小生だけでは有りません。

入港途上のエルベ河の兩岸の風景が亦吾々日本人にびたり来るもので、しつこく洋館が点在し、緑の森とに共目にしみ入る様です。ついハンドレールにもたれかかり、ラインの流れ・を。野バラ・を口づさむのも無理からぬ事と云えます。

ハンブルの碇泊は一寸余裕がありませんので早速足ならしに上陸しました。本船の岸壁から町に出るには渡舟に乗って行く訳です。渡舟と申しますと諸兄は日本の名港で只ゆるる木船の木ッ葉舟を想像されるでしょうが、木ッ葉舟と一万トンの鉄の船舶が同居して居るのは、我が海運国日本を始めとする所謂中近東諸港で、欧米の舢にせよ、渡舟にせよ実に立派なもので、美しい妻子も生活する船頭

さんが前に僕らしい程です。

この渡舟に乗って先づ感じた事は、ドイツ人の面構えの真剣さと云うか真面目と云うか、何か各人が腹に一物確かと抱いている様な気魄を感じた事です。之は私の買いかぶりで、北欧の風土、気候が彼の様なマスクを作ったのかも知れませんが、彼等には大なり小なりカント、ヘーゲルの思想が流れて居る事は事実で一才とした酒場を頼をつ。込んで野暮な親父さんと話をしても判る事です。一寸メクラが杖の先で小石を打って、土は岩石の小片だとうそぶいた様な文体に成りましたので、先にもどして話を進める事にしましょう。

渡舟を降り、だらだら道を上ると、港街・デンボウリです。神戸の元町を山手にぐ。と一押し押し上げた恰好ですがこの辺りは全く飲食店、バー、キャバレーの集積地で其物らしい賑わいを持って居ります。其辺のある一軒のキャバレーに入ってバンドを聴き乍らドイツビールを傾ける時、此れ迄の航海途上の荒天の疲れもふつとび、日本への後半の力が湧き出るのも無理からぬ事です。それに日本の一部の悪質な女給共の様にビールの悪い扱いは絶対にはしませんし、悪質なタカリも余々有りませんから、エトランゼにとって、文字通り心身共に安らぎを与えて呉れる最高の場です。

夜が次第次第にふけ行く頃、ふとお袋への返事をこの地の印象を記そうと思ひ

たち、再び渡舟に乗って本船に帰りまし

翌月、郵便局へ行く用件が在ったので一人で外出したのですが、何処に郵便局が在るのやら、左右をキョロキョロして見ると、一応身成りのしつかりした若者が来ました。口の中で二、三回独語の発音練習を行い、いよいよ近付いて来た所にサッと話しかけてみました。(何と威勢のよかつた事でしょう)

彼はゆ。たりと微笑して、君は英語が出来ますか？と来たので、勿論出来る、と答えた処、では英語で話し乍ら局迄連れて行ってあげようとの事、道々彼の話に依ると最近の独語は、三格四格の使い方が英語化し、昔の様に少くとも会話に於ては、厳密性がそこなわれて来たとの事でした。

そうこうする裡に郵便局に着きました。所用を済ませた処、突然、独逸語の教師で在った彼が、ガイドに変化したのには、一瞬驚きましたが、併し、直ちに気を取り直し、少々御礼等をして別れた次第です。この急変にも不意、彼を憎めなかつたのは、同じ敗戦国民同志なるが故でしょうか？今も決して不愉快には思つて居ない。

以上が私の卒業後入った職業を通じて得た浅い経験、体験談のオソマツですが実際の処、私が言ひ度いのは、海国日本を一步出て外地に入港し、痛切に感じたのは、彼等河港国家の港湾諸設備の立派

さであり、通船、艀の立派さでした。

勿論凡ての外港にガントリークレーンが走り、立派な上屋が存在するとは云いません。併し、少くとも自国産業を、引いては国力を維持発展せしめ様と云うのは、全般的な港湾施設関連諸設備の合理的な運用と能率的な作業態勢を裝備して居ると云う事です。

大阪のさる造船所に初のシュナイダー

「におい」

戦後まもなく或る外人が銀座を歩いて廟の「におい」を感じたそうだが、それはたまたまくみ取り作業でもしているところを通り合せたのであろう。

丁度二年前のことであるが始めて外国を旅した私にも、各国によってそれぞれ「におい」の異なる事を感じた。即ち香港は汗くさく、インドはすっぱい土の「におい」がする。欧州は概して方びくさくアメリカはベンキくさい。

非常に極端な表現かも知れないが、事実そんな感じだったのである。而しもう一度私が外国を旅してみても、はたしてそんな「におい」がするかどうかは解らない。各国によってそれぞれ風俗習慣が異なり長い歴史の上にそれが生活の中に自然に溶け込んでいるのであって、ちよつと覗いた国々の土陶先からでは尚ほその国の本来の「におい」を嗅ぎ取る事は出来ないであらう。

式クグボートが備えられたと事々しく報道する等は、汗顔の至りで、四面環海、天然の良港に甘んずる事無く、其の所与の、天然自然の好条件を一〇〇パーセント活用せしめる意欲、着想を一步一歩具体化して行くべく努力したいものです。

筆者は三〇年度経済学部長
大阪商船(株)勤務

三木 良治

元来私自身人一倍臭気を気にする悪癖の持主であつて家に居ても食事の時などテーブルにおかれた料理を直ぐ嗅いでやたくなる性分なのでよく女房に叱られるのであるが、たまたま要な「におい」でもしようものなら、鬼の前でも取つた様に下げますのであるが女と云うものは案外平気でバクづいて居る。自分の作った物には絶対の自信を持ち、ものを大切に作る細い神経には全く敬意を表する次第である。それでいて別にお腹の工合は何んともないのであるからこちらの思い過ぎであらう。

私が拳法を始めた動機はスポーツを愛する者の「節度と礼儀の正しい事」にあつた。そしてその神徳の雲霧の中居る事自体が楽しかった。昭和二十六年世は未だ戦後の復興半ばならず武道も亦剣道は剣法で柔道がわずかに練習を始めていた。丁度そんな頃生れた拳法部は総勢

八人一つの防具を替んなが変り合って使わなければならなかったけれど替んなへ下が出る程練習した。しかし私には一つだけ、いやでたまらなかつた事がある。それは防具の一つである面をかぶる事であった。汗でびしょりぬれた面が次から次へとそして自分に廻ってきた時その度に私は目をつむり息を止めて着けなければならなかつたあの「におい」ではあったが、今から想えば懐かしくこの汗とほこりの結晶こそが今日あると思えば、

また愉快でもある。

飛行機の発達により世界は次第にせまくなりつつある。亦あの外人が再び銀座を歩いて聞くさいと思うだろうか。いややそれどころか、ゼンガクレンと云う悪臭に驚く事だろう。

兎に角支那堂で嗅いだ「におい」と云うものは、非常に印象深く、残るものである。ましが「たにおい」をそれが本来の姿だと早合点してはお互いに迷惑な話である。

O B 歴訪

創設何十年ともなれば新々の優秀なる先輩達が居られ(例外もあるが)OB 会員もアウトサイダー即ち途中退部者

(除名は除く)を含めると百名を越す有様。誰から訪問しようか種々迷ったが敢て



高宮 敬二

ず今大衆的人気の焦点にある林勇吉を訪問した。若名高宮敬二、昨春小森白監督の「無警察」に高宮敬一郎としてデビュー。後芸名を現名に変え、新東宝のホープとして六尺豊かな長身を揃

拳法による社会人

森本弘道

今、同大拳法部創設十周年を迎え、OBの一員として、御覧、諸先輩の尽力を感謝し、共に祝福し、顧みる激しい練習生活から今日、社会人となって拳法を学

えた。ハンサムタワーズの一員に選ばれ、大蔵賞社長のお氣に入りである。

生れは人絹織物で有名な福井県。ところ聞けば、肌色が白く美しいのも道理と加えて拳法で鍛えたたくましさ加わって来ると周囲が黙って居る訳はなく、大学卒業後ラジオ福井に入社するや遂にミスター福井の座に据えられた。

新東宝からの再三に亘る誘いに遂に応じ、俳優としての道を踏んだ。

主としてアクションものに出演の彼は同志社時代に拳法部で叩き込まれた技が大いに役に立っているとか。

同志社拳法部OB会々友の市川雷蔵さん、同志社大先輩の田村高広さん、同大フエンシングOBの藤木悠さんと立派な諸先輩に恵まれた彼の今後が楽しみ。宗家沢山宗海先生も熱心なファンの人。日本拳法の唄をレコードに吹き込み目下発売中。(小門記)

んできた事が、有意義であった事を重ねて喜ぶものである。精神的には云うまでもなく、武士道の礼儀を重んじ剛志と忍耐力が養われた事が、社会人として、社内、外に於ても、労働、セールス、商取引、等の困難な場合、その労苦に堪え、打ち勝つ実力となり、また、果敢で、しかも、激動中に冷静な判断をする能力も出来る拳法は、一見乱暴に映るが、これも人間の闘争性を吐き出し、発散させるので心理的には抑圧がなくなり、振りかかると火の粉をはらう防禦技で、かえって明朗温和な人柄にする。この氣質の社会人を作り、社交上、必要な礼儀正しい温厚な、度量の大きい人材を育成する上に、他のスポーツに優るとも劣らぬ団体生活の中に生まれたチームワークから、スポーツマンシップを学び、礼儀を重んじる武道である故、これは、歓迎、遠慮、また、プラトン等、昔の聖賢らがこの道で心身を鍛えた事で教育的な立場から銘記すべき事でしょう。それは、よりよき新時代をになう青年が、拳法を学ぶ事によって、個人の人格の育成と、社会秩序の維持と、に貢献する事の出来るものである。拳法を試みた者はその精神、拳法の八要に反して社会の落伍者にならぬ様、七難八苦を越え、剛志と忍耐力をもち、社会の荒波被害に打ち勝ち出世される事を祈ると共に、後に続くを信ずる。

『阿波踊・拳法・マンボ』

桂 一三郎

三顧地の様々、単語を並べたが、昭和二九年に同志社を出てから、幾年か経った或る日、当時徳島に居った私は偶々所用にて米阪し、菅塚山の三木先輩、同期の岩佐君安村君と「極東航空」に勤めていた川真田君（何れも拳法OB）等の悪友共をTEIにて呼び出して、一献、盃を傾けることになった。やがて呑むほどに、酔う程にほつほつと怪気焰を挙げていつもの如く、三木氏引率の下に、宗エ門町はキャバレー・オリエンタルへの御入来と相成った。

酔度のメーターは將に上りっぱなし。曲はタンゴから、当世流行の情熱のリズム・マンボへと変わった。だが残念乍らステップが何らないで、一瞬ためらっていた。その時、誰が言ったのか知らないが「マンボなら阿波踊ができるせよ」と言った。此語に言葉はいらなかった。

斯せずして一列縦隊は身振り手振りも鮮かに「コリヤ、コリヤ、く、……」驚いたのは他のお客。或る者はボックヌ席へ、そして又或る者はその場でソツ意ったまま、しげしボウ然として一四ま



た一周と、フロアーを意勢よく踊って行くその隊列に視線は集った。情熱のリズム・マンボと、阿波踊のロマンチックなムードに包まれて。時代、現役泣く程苦しかった合宿練習そしてその基本の突き、蹴り、足捌き等々、その厳しい訓練の上に出来た休捌き

が、あの阿波踊に一脈通じ、それが又、マンボのリズムにピッタリとは。徳島に早くから拳法が伝わったのも、何か偶然ではなさそうな気がする。

日本電気機器株式会社

(一九九九年経済年)

交遊寸感

且って、ブルーリボン賞に輝いた大井俊、市川雷蔵氏は、大のスポーツファンであり、相撲や拳法の愛好者であります。そして同志社を好きな氏は、度々同



志社へ来られました。

丁度、私が学生時代ふとした縁で、色々私的に御指導御鞭撻を頂く機会を得、爾来ずと今日迄何かと新厄介に相成って居ります。

今回偶々、当都十周年の記念行事の一としての記念小誌の出版に際して御寄稿を御願ひした処、スケジュール誠に幅狭せる中にも拘らず懇々、新装成った新町道場に来光下さって、我々の拳法の細微に亘って熱心に研究し、拳法に対する認識を深めて頂きました。

氏は同志社体育会発展の為に一方なら

祇園懐古



七夕は年に一回のデイトとすけれど同志社の学生は年にお目にかゝるのも丁度七夕はんと同じです。年に一度金長はんの三木さんやお連れの方達が「けんぼう」とか云ふ恐いものをおやりやす学生はんと御一緒に来はります。なる程皆さん大きい体しておいでやすのでプロレスのお人かと思ふ事があります。

奥河校前を置いており、今回の事と併せて深く感概致します。

私は昔々、氏がやがて世界武道史に誇る(史上、初めて総合格闘技を防具化した点)我が、日本拳法、を主題にした映画に主演される日を夢に見て居ります。氏の益々の共進御発展を祈りつつ欄筆致します。

花見小路

「美登幸」女将

浅田三恵

学生はんと云えば最近はこの花見小路へは殆んどお見へやおへん、パーヤコブエが多くさん出来て気がねのうらんでゆかはるようどす。祇園町の舞なところは今の学生はんに時代おくれと云ふ事になっているのかも知れまへん。

私が未だ若い頃には随分多くさん学生はんが遊びにおいでました。若い舞子はなんなかお稽古をうちのけで学生はんの下宿へ遊びに行つて、後でえらいことお母はんに叱られ泣き出す始末、今から想へば世の中ものんびりしてました。又毎年行はれます各の行事もおどりなどでも学生はんが舞合のかぶりつきにおいでして日頃おなじみの若手はんや舞子は顔を面白おかしう笑はせますよって踊つてい

はる方は大変どす。顔を真赤に汗一杯かいて努めていはる図をよく知っています。ちよつとも笑おうものならお師匠はんに六目玉をくうのどすよ。踊った方も笑はした方もおどりが終つたあとの夜なぞ御想像におまかせします。たしかに昔は余裕と云ふものがおした、そして

余裕の中から自然に出てくる語詠がいつもほしいと思ひます。面白う遊んでくれるお人はこゝちも面白う遊ばせていただきます。

同志社出身の舞子はなんも法園に二三人いはります、若い「けんぼう」の学生はんがお見へやす度に私は想うのどす。





武道 鼎談

武造評論家

上西 五郎

関西TV
プロデューサー

石浜 典夫

OB会副会長

岩佐 里男

岩佐 同志社大学法学部が設立以来早くも十年を閲し、創世期に聊か努力した我々が見て格段の相違と嬉びを感じるのですが、今後の発展の爲にも広く現今の武道に敷衍して忌憚なき御意見や批判をおうかがいしたいと、テレビ武芸帳・のプロデューサーである有名な石浜君と目頭から武道一般に非常な興味を抱き、頼れた批評家としての私が買っている上西君にわざわざおいでを頼った訳です。

上西 岩佐君は大いに買われり気分だね。僕は歴史的に柔道の事を一寸知っているだけで他は駄目なんだが、そう云う意味で、テレビ武芸帳は毎回興味深く拝見させて貰いましたよ。

石浜 初め企画した時は十回位で止め

るつもりだったのですが、まあ割と評判も出て来て、最後は日本の古武道の集大成をしないと随分息込んだのですがね。

上西 長く続きましたね。

石浜 ええ、約一年半程ですが、関西テレビの全情報網を集中して各流派正統やかくれた武者を尋ねていったのですが消息の全くわからない人もあり、まあそれなりの苦勞もありましたね。

上西 非常に有名な流派の流派が今全くわからないと云ったケースがありますか。

石浜 ええ、ありますね。柳生流ですわ。柳生は兵庫助から出た尾張柳生流にのみその名脈が伝わったのですが、その後の方である柳生長蔵氏の居所が解りませんでした。終戦直後の悲惨な生活で解ったのですが、木剣の行脚でやられた

らしいですがね。今若し生きておられるとしたらもう八〇才近いでしょう。

岩佐、上西 あの名門がね。

石浜 実に惜しいと思っただのに、吹き針がありました。

上西 ・吹き針・と云うとあのお杉婆の。

石浜 ええ、そうです。金属製の小さな管にメドのない針を百本入れまして、それを口の上顎に付け、上前歯の間に小さい穴をあけて於てその間から吹出すのです。

岩佐 女の護身用ですね。

石浜 始め福井におられるという事で走っていったのですが、新潟県へ移転されてしまった後で、又直ぐ新潟県へ行って捜したのです。

矢張お婆さんでしたが、もう既に亡く

なっておられました。ああいうのは全く後継者もない様です。お婆さんを知っている方にあつてきくと、縁側に座っていて庭の水に止まっている笹をねらい打ちする時は針が一本の綱糸をピンとはった様にお婆さんの口から枝の笹迄続いて取逃さなかったそうです。

スタジオで実演したら全く効果満点なんですけどね。

上西 そう云えば確かにテレビ的效果のあるものともいえますね。ああ云う演武の初めは古式では弓より始めるとの事で、弓を一番始めに持って来たのです。

しかし殆ど儀式的作法で一般受けはしなかつたのです。

岩佐 プロデューサーとしては矢張そういう聴衆の面から編集されたと思うのですが、我々武道関係者から申上ると此の点に少しわきまがきれない感を抱くんです。石浜 勿論色々の批判はありました。

何十手という型を見せて戴きその型を限られた時間内に素人を相手に解る様にダイジェストしたり、順序を飛ばしたり、テレビ的に組立てるのですから。その事を先生方に御納得戴くのに苦勞もしました。上西 しかし、そうした苦勞も回を重ねるに従って随分理解してもらえたのじやないですか。

石浜 確かに終りになる程楽でした。

テレビ網が予期以上に発達しておりましてからね。或爾遠な山村にあった剣術の道

時を過つた時など、とうとう我が流
派も、武芸帳・出場の番がまわってき
ましたかと、感激して戴いたり。まあ一年
も立ちますと、武芸帳・出場の有無が
ある程度流派の評価基準になりましたか
らね。我々に取っては予期しない結果で
した。

上西 これ武芸帳の投げかけた功績
は随分大きかったし、私などの好事家の
気持には全くびびりたりでした。あーした
元録は本当に貴重なものと思います。

石浜 一応一六〇にはしてあります
東京オリンピックには之を編集しなおい
て、各回選手に見て貰うと云う企画があ
ります。

岩佐 ホウ、それは是非我々も見たい
ですね。

石浜 整理出来次第試写させて貰いま
すよ。

岩佐 まあ我々の日本拳法も二回出場
しているのだが、石浜君あたり卒面に云
ってどの流派、勿論之は拳法唐手界に限
っての話だがどの流派が最も合理的だ
と思う？

石浜 ……………。

上西 それを石浜君に聞くのは一寸酷
と思うな。
まあ私は拳法をほんの僅かカシツタだ
けだし。他流の事は全然知らないから、
どうしても身振り腰振りになつてしまつた
のだが、練習方法とか発創が非常に合理的
かどうかと云う事は出来るね。

石浜 そりやそうですね。

上西 だから庭の庭も之は僕の真意な
んだが、唯一人強い男が出て来たからそ
の流派が合理的で誰がやっても強くなる
と判断する事は早計で、矢張り人間の筋肉
の生理的状態、力学的な科学の面から分
析し、その認識上から初めて合理的な練
習方法を考案して行くべきだと思つたの
だ。

石浜 練習方法の合理化と云う事は確
かに大切ですが、古流を守ってゆかれる事
も勿論大切ですが、矢張り発展する為には
色々変化して来ていさすからね。

上西 そう云う意味で沢山先生が防具
練習を考案せられた事は、技にスピード
と変化を与えるなど応用動作と云うか、
より実践的になると云う点から云つて、
劃期的な発明と云えるね。柳生流が天下
を制したのも今迄の木剣を廃止し、筭
竹刀に代えて、乱撃練習を他流にさきか
けて考案した為だし、日本伝講道館柔道
が矢張り古流を撃破し、日本に不動の位置
を獲得したのも受身のうら付による乱取
練習の数からだと思つたのです。

岩佐 防具練習と云うものは今や唐手
界などでも常識になりつつあり、練習方
法として大きく浮び上つて来ました。

上西 日本拳法の防具が技の充実に、
速かに他流を凌駕する事は、大阪大学の
元主将であった中木君（三段）がよく感
心した様に我々に云っていましたがね。

岩佐 中木君は確かに上手かったね。

上西 彼は事、武道にかけては天才的
な面がありました。

非常に頭腦的な鋭い風を持っていまし
たし、拳法の技術についても一見識をも
っていました。

石浜 私も個人的に大学が一緒だった
ものだから一寸知っているのですが、
今どうして居られますか。

岩佐 今自衛隊でパイロットしている



そうですね。

上西 ええ、非常に優秀なパイロット
ですね。彼は余り自分を語らないので、
はつきりしないのですが現在自衛隊で拳
法が徒手格闘術として正規採用されてい
るのもどうも中木君の幹部候補生時代の
実績が相当ものを云つて居る様です。

石浜 実績と云いますと？

上西 まあ昔で云えば他流試合でしよ
う。幹生の中には勝手などの有段者が
多くいるのでどうしても徒手格闘の実習
の場合他流との比較演武と云う事になる
のです。そうした時、他流の高段者に
もまだ負けた事がないと云ってましたか
らね。一年下の幹生として同大の柏木
君（四段）が入ってきたといつて孤軍奮
闘していた彼が勝んでいきましたよ。

岩佐 柏木も馬力がありませんからね。
上西 彼の武道の段を勘定したら、拳
法は三段ですが二十段に近かったですね
石浜 そうした才能はうかがえました
ね。

岩佐 見て、日本拳法の歴史は随分と新しい
ですね。

岩佐 ええ、現沢山宗海先生が昭和七
年初めて、日本拳法を創始されてからで
すから未だ卅年になりません。

上西 今の人が昔の名人が今の武道家
より強いと思うのは錯誤だな。

岩佐 勿論そうです。一つの生き物
の進化課程と一緒に、例えば殿り
技一つについても、左廻りうしろ殿り、
と云うのは、今から五年程前に関大の酒
井四段が関学との定期戦中の一つの応用
動作として突発的に極めたのが、その蓋
符ですから。

沢山流祖始め、矢野師範、中野師範等
まだまだお若し。東京で御活躍中の森師
範などが現在、科学的合理的な拳法の体
系を作り進ませようと日夜御努力され
ていますし、そういうトップブレインが
全く創世期時代と同様、意欲的ですから
。日本拳法が名実共に、日本の拳法、
として日本中を席捲する事はそう遠くな
い将来と思つて居るのです。

石浜 私などは、拳法と云うと直ぐ少
林寺を思い出すのですが、矢張りそう云
う系統ですか。

岩佐 拳法の流祖が摩訶となつていま

ま

すから拳法の意味上の系統から申しますと、小林寺迄遡りますけれども、武術そのものが絶えず各流派への分派と統一とを繰り返して来た歴史性より考えますと、小林の正統が若し支部に残っていて、日本拳法と比較出来たら随分異質的な、又それだけ進歩した体系を日本拳法はもっているでしょうね。

石浜 小林寺が拳法が発生したのは何時頃なんですか。

岩佐 樺の歴史から云いますと菩提達摩は中国の禪宗の第一祖でもあり、歴史上の實在人物なのですが、彼が梁の武帝に会ったか、どうかと云う事が論争されている処を見ますと、西暦五〇〇年前後に武技としての拳法が発生したのでしようね。

日本へは明末に亡命して来た陳元質が云われたと云われていますから、その間千年以上もかかっています。

空手空手と云い始め一般化して来たのが、大正年間の松浦館長松義珍氏で此の方は沖繩唐平ですが、やはり中国の小林寺か、沖縄で変型したものです。

石浜 四国に小林寺派があるそうですね。

岩佐 あれも日本の小林寺流という意味だけで小林寺正統とは勿論考えられません、發生的には合気道だけが因産と云われておられますがね。

上西 小林寺拳法が日本の小説で始めて紹介されたのは怪傑黒頭巾で青年ゾア

ンを引きつけた高垣陣の、大陸の若鷹と云う冒険小説だし、合気を紹介したのも、昭和の柳川春浪であった。平田普策の、新戦艦高千穂、だったのです。

岩佐 小林寺は河南省登封県西北、少室山麓にあって、達摩が南朝九年后悟を開いた処なんだ。

練習方法は、

一番初めには、空屋の中の壁に拳法の図解をはりつけ、それによって変化を練習させ、

二番目には、厚い牆壁にトンネルを明け、その穴を自在に出入せしめ、

三番目には、向の側の地に鉄串を立てトンネルを出た瞬間の体捌きを熟知せしめ、

以上を熟達後始めて武器の操作を教えた

と伝えられています。それに特にきびしかったのは卒業試験とも云うべきもので、出る時は必ず表門より出なければならなかったとされておられます。

表門には達者の僧が四人いて、四僧と技を闘し、勝たねば通さなかつたし、第二の門には、四猿が武器を取り之に向い。そうして此の第二の門の中の狭い道に木製人形が十八体あって、路面をふめば仕掛により、その十八体が骨、動き棒で乱打したと、伝えられています。

まあ、本道の練達の士のみが、小林寺派として世にまかり通った訳でしょうね。

石浜 全く精進主義ですか。

上西 こう云う話を聞いていると、私達は何処か、山里にかくれた武術がある様に思いますが、この考えも幻想ですね。現代では、常に選手の間と云うのが問題なので、柔道の例を見ても解る通り、名人は都会に、そうして練習場の多

しかし、柔道、唐手、拳法の人にはスポーツ的にも必ず増加すると思う。

她がここが問題なのですがスポーツ化する事が、良いかと云うとそれは非常に疑問だと感じるのです。

私は常に拳法を柔道の発展と比較して考えるのですが、日本伝講道館柔道とい



い処から輩出してくる筈ですよ。

岩佐 拳法の将来性はどうかだろうね。

上西 柳生流でも、小野派一刀流でも昔日の面影が全くない。勿論之は、日常の社会的な生活様式が刀を捨て去ったし変化したから、スポーツとしてさえ剣道が衰微して行くのは当然です。

うものを嘉納先生が明治十五年に創始されてから十八年後には、もう米国の海軍兵学校の正規課目として採用されています。矢張りそれだけ講道館柔道が合理的でもあり、又それ故に非常に強かった証左だと思えます。伝え聞く処によると晩年の嘉納先生にして尚、真剣に欧米

のプロレスと対決を期しておられたのです。

石浜 最近オリンピックにひっかけてそんな記事が出ていましたね。

上西 だから柔道がオリンピック種目に入ったと云う事で講道館自体も手離しで嬉んでないと思んです。

柔道がスポーツとして発達して行くところに自から柔道本来のものから異質的变化をせざるおれなくなると思うのです。重量別と云う事もスポーツとしてはそう考えるべきでありましょう。しかし、武道としては考えるべからざる要軍と云うより大なる退歩と云うべきです。

一流を創始したら、勿論技もふえ、練習内容も充実して来るべきですが、創始した精神を時勢に適合すべきではないと思ふのです。そう云う点から、今の調子で行くと、スポーツ柔道と武士道柔道とが分裂する可能性は我々の目からもある様に見えるのです。

岩佐 そんな可能性があるだろうか。

石浜 考えられない事もないですね。

上西 柔道も他流試合を禁じて来ましたが、しかし結果的には他流試合で自流の優越性を絶えず立証しつづけ、他流を併呑してきました。大きくなる為には好むと好まざるに係わらず、之はさげえな

いものだったでしょう。

戦前、唐手界や合気道が振わなかった一因には柔道の覇勢の余韻がのこっている

たからです。

講道館が重量別に踏み切って、世界の柔道になったとしても、武道としての柔道から明らかに後退したと判断する訳です。

石浜 成る程

上西 柔道見たいに一世を風靡しているものはそれでも良いですが、柔法の様にまだまだ之から発展期にかかろうとしているものが、世に云うスポーツナイズしてしまふ事は、反対に将来を阻むものだと思うのです。

岩佐 そうした点は先程、御説明した通り安心して戴いて結構です。

石浜 日本柔法と云う言葉も耳新しいのですが、どの位の範囲迄、現在広まっているのでしょうか。

岩佐 昭和廿四年当時は有段者も二百人位、関大、関学と徳島支部、吹田支部変った処で、住吉高と天王寺高がありました。

上西 そんな事を思うと随分広まったね。岩佐君も同志社柔法部を初代主将としての苦心は兎角よくやって来たものですね。



岩佐 まあ云うなれば運が良かったのですな。しかし日本柔法がここ迄、伸びてくるとは私も思わなかったです。今では、関西では関大、関学、関大、他八校

関東では早、慶、明、他四校迄がやっている様な状態。

石浜 文字通りインテリ式武道ですね

岩佐 青白くないだけですわ(笑)もっと色々御高説を拝聴したかったので時間がありませんので、今後共宜敷お願い致します。

石浜 こちらこそ、どうぞ宜敷、同志社大学柔法部の御隆昌をお祈りして居りますよ。

略 歴

上西五郎氏

大阪市立大学哲学科中退

石浜典夫氏

大阪大学文学部卒 関西テレビ・テレビ芸芸報・担当

オシバベリ
ゴルフ
といえは三木先輩を始め奥村、田中両先輩とハンディ18の自称名人が居るが、今年度全日本学生選手権で優勝した川由君(現同志社大学ゴルフ部主将)は何んとハンディ118である。

十周年を祝う

関西学生柔法連盟

関西大学

関西学院大学

立命館大学

大阪商業大学

大阪歯科大学

大阪市立大学

大阪府立大学

大阪大学

大阪学芸大学

兵庫農業大学

神戸商船大学

桃山学院大学

名城大学

名古屋商科大学

徳島大学



OB会幹事長

柏木治行

記念すべき十四年を遡へ我々の感慨又ひとしほであります。

わがOB会は組織面からみましても又、その育成年数と傘下人員からみましても学内外にその充実振りを誇って居ります。

四国の名門三木家の第十四代を継がれる、財界ジュニアのホープ三木良治氏を、OB会長に戴き、その幕下に、副会長岩佐氏、監督藤田氏、そして不肖私が幹事長を承って、会運営に当って参りました。

今回の記念行事の実行に当りましては、先づ去る三月五日、OB総会を開い

て会員総意の上に、行事実行の基本線を置き、組織的には

記念行事実行委員会を設けて、その委員を部門別に役割の分担を致しました

即ち、総務委員会、定期職員会、編集委員会、の三部門を設けて夫々役割分担の上、行事実行にかかりました。

何分にも初めての経験にて、実行委員会丸も度々暗焦に乗り上げましたが船友の運転よろしきを得て、何とか彼岸に漕ぎつき得ました。

尚、実行委員長を始め各委員の方々は、公私誠に御繁忙の中にも抱らず、目的完遂に御尽力賜はり感謝致します。

OB会員の各位には、記念行事実行の基金として修身会費をお願い致しました。兎、多大の御援助を得ました事を紙上を

拝借して御礼申し上げます。

今后共宜敷く御鞭撻賜はりまして、よりよきOB会発展に御尽力下さる様御願ひ申上げます。



◎表紙は「二科会」の商業デザインとして令名高い小森さんじ氏にお願ひした。氏は昭和二年同志社経済

を出られ、在学

当時は水泳部とアイススケート部に於て活躍されていた。住所を記して感謝の意に代え度い。住所大阪府東淀川区塚本町二一三4 電話七六二七番。ア

トリエ大阪府北区浜崎町二八ドチャータン商會内

◎その画かれた雷さんは、京都名所の一つ、三十三間堂の雷神。今回の小誌出版に当り御縁を得た市川雷蔵氏のブルイリボン賞の如く、何事もやる限りその道の第一人者となるべし。と高邁なる理念を拝聴している横合から「私だつたら三寸下ねらう」……だなんて、下賤なるものはこれで困るホ。

◎OB総会に於ける行事決定が、三月五日、春まだ浅き頃、四月二十四日着手実行。それからが仲々進まない、牛のよだれの如く、原稿が集らず難渋した

が、多忙の小門委員長に代って私が登壇する結果となり、素人細工の編集に種々と苦勞した割に、出来上ってみると、あれもこれもと意が出て、不細工な所だらけにがっかりしている。

◎十年の歴史は、後編を何れ次の機会にまともな思いと想っている。何しろ昭和二十五年頃の手紙ハガキ等を一々読んでからメモを取りそれを資料にしたので手間取る事、一方なず苦勞した。

◎一読後種々な御意見を素直に御言。て頂き度い。次回の参照として。

◎OB会長始め、編集に日夜東奔西走された諸兄、とりわけ、小門、森本、播磨の三君にはやせ馬に荷を負わせた様な感で相済まなく思っている。

法 拳

昭和35年9月30日印刷
 昭和35年10月2日発行
 発行所 京都市上京区烏丸今出川
 同志社大学法部OB会
 発行責任者 三木良治男
 監修 岩佐晃啓
 編集責任者 小門啓
 森本弘道印刷株式会社
 営業所 大阪市南区東區町23
 電話 2367

